

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## The Phonological Systems of One Western and Two Eastern Dialects of Pwo Karen

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 昌彦 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00004184">https://doi.org/10.15021/00004184</a>

ポー・カレン語諸方言の音韻体系

——西部方言1種と東部方言2種——

加 藤 昌 彦

The Phonological Systems of One Western and  
Two Eastern Dialects of Pwo Karen

Atsuhiko KATO

The main purpose of this paper is to describe the phonological systems of three dialects of Pwo Karen which are spoken in Burma, and which had not been previously described.

The dialects described in this paper are the languages of Kyonbyaw, a small delta town (one of the western dialects), Hpa-an, the capital of the Karen State (an eastern dialect) and Tavoy, the capital of the Tenasserim Division of southern Burma (also an eastern dialect). Since Pwo Karen (like other languages of the area) is a monosyllabic language, analysis of syllabic structure is the principal concern of works dealing with phonological description.

The syllable structure of all of these dialects can be represented as C1 (C2) V1 (V2) (C3)/T, where C is a consonant, V is a vowel, and T is a tone. C1 is the initial, C2 the medial and C3 the final consonant. The combination of V1 (V2) (C3) is further referred to as the rhyme. All of these dialects possess omnisyllabic tone systems where the tones consist of bundles of prosodic features including phonation type, pitch and contour.

The author worked consecutively on the Kyonbyaw and Hpa-an dialects from the latter half of 1993 to the first half of 1995. The work was carried out chiefly in Rangoon with some short-term fieldtrips to

---

\* 東京大学, 国立民族学博物館共同研究員

**Key Words** : Karen, Pwo Karen, tone language, Southeast Asian languages, Tibeto-Burman languages

キーワード : カレン語, ポー・カレン語, 声調言語, 東南アジア諸語, チベット・ビルマ諸語

Kyonbyaw and Hpa-an. The research on the Tavoy dialect was made sporadically whenever the informant visited Rangoon.

- |              |         |
|--------------|---------|
| 0. はじめに      | 4. 音韻対応 |
| 1. チョウンビョー方言 | 5. テキスト |
| 2. バアン方言     | 6. おわりに |
| 3. タボイ方言     |         |

## 0. はじめに

### 0.1. カレン系民族とその言語<sup>1)</sup>

カレン系諸言語の系統的位置づけに関しては、いくつかの説があり、いまだに決着がつかない。有力な説としては、チベット・ビルマ系言語の一派とする Shafer [1974] の説と、シナ・チベット系言語がチベット・カレン系と漢語系に分かれ、さらにチベット・カレン系言語がチベット・ビルマ系とカレン系に分かれるとする Benedict [1972] の説の2つがある。カレン系言語の系統を考える上で最大の問題となるのは、語彙的にはチベット・ビルマ系言語と非常に高い率で一致を示すにもかかわらず、他の大部分のチベット・ビルマ系言語が SOV 型の基本語順を持つのに対して、カレン系言語が SVO 型の基本語順を持つという事実である。この特徴に関する言及をいくつか挙げておこう。

文法構造はタイ語に、単語はビルマ語に近い。[原田・大野 1979: 5]

以上の考察によって、バオ語を中心に考えるならば、カレン語の音素体系、単語形式はビルマ語系に属するべき性格をもっており、それに対して文法形式はタイ語的な特徴を示し

1) 1989年、ビルマ政府は国名の対外呼称を MYANMAR に変え、同時に地名や少数民族の対外呼称も現代ビルマ語ふうに変更した。これに伴い、カレン族の対外呼称も KAREN から KAYIN になった。この変更に従って日本でもカレン族のことをカイン族と呼ぶ向きもあるが、本稿では「カレン」を用いた。その理由は、日本語の「カレン」が既に術語として定着していると思われること、そして、カレン族はタイ側にも居住する「多国籍民族」であるため、ビルマ側の決定だけに従った場合いたずらに混乱を生じる可能性があること、の2点である。また、地名についても混乱を避けるため、これまで学術論文などで使われてきた従来通りの呼称を用いた。

ていると結論できる。この事実から、カレン語が本来タイ語系に属する言語であって、ビルマ系諸言語の強い影響を受ける環境におかれて、音素形式単語形式の本来の形をビルマ語的に置き換えていったと考える余地は十分にのこされている。[西田 1967: 31-32]

Karen syntax in general, however, with the object placed at or near the end of the sentence and with relating elements preceding as well as following, stands close to Chinese and even closer to unrelated Thai, which has perhaps exerted some influence here. (しかし、目的語が文末または文末に近い位置に置かれ、修飾要素が後置されるのと同様に前置もされるというカレン語の文法の一般的特徴は、中国語に近いものであるし、系統的には関係ないがおそらくは幾分かの影響を与えたであろうタイ語に、より似ているのである。)[BENEDICT 1972: 129]

カレン語はチベット・ビルマ諸語の中で例外的に SVO 型の語順をもっている。このことが長くカレン語の帰属を決定出来ない原因であったが、現在では、カレン語はモン語との接触の結果、語順が変化したと考えられている。[マティソフ 1990: 57]

ここに挙げたいくつかの言及にも触れられているように、カレン系言語が言語接触によって大きな変化を遂げた言語である可能性は大きい。カレン系言語の研究が、東南アジアにおける言語の接触を考える上で非常に重要であることは間違いないだろう。

カレン系言語を話す諸民族は、ビルマのイラワジ・デルタから西部タイまで比較的広い地域に分布しており、主要なグループには、スゴー・カレン、ポー・カレン、カヤー(赤カレン)、パオー、ボエーなどがある。首に金属の輪をいくつもはめて首を長くする習慣で広く知られるパダウン族も、カレン系言語を話す民族の1つである。ビルマのシャン州南部から、カヤー州、カレン州にいたる地域には、10を優に超えるカレン系民族が居住しているが、この地域が往來の不自由な山岳地帯であること、政治的に不安定な地域であること、話し手人口が少ない言語が多く、その中には既に絶滅してしまったような言語もあること、などの理由により、言語の記述研究は非常に遅れている。これらの言語に関する利用可能な資料は量的に極めて限られているため、カレン系言語内部の系譜的關係についてさえも、いまだに定説がないというような状況である。

カレン系民族の来歴については、東南アジア大陸部に住む他の多くの民族と同様に、北方から移動してきたと考えられること以外はほとんど分かっていない。現地の歴史的文献にもカレン系民族はほとんど登場しないのである。しかし、上で述べたように、シャン州、カヤー州、カレン州などのビルマ東部には何種類ものカレン系民族が密集

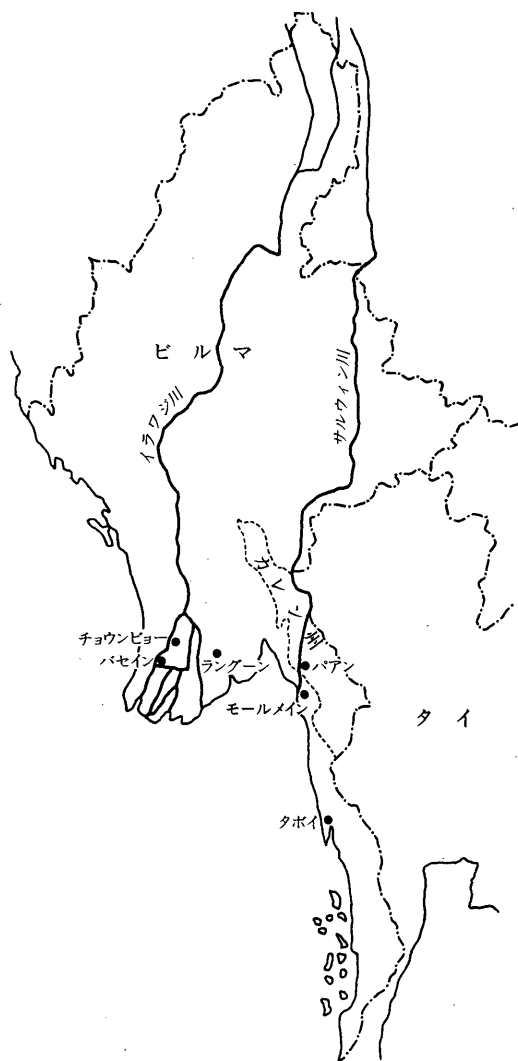
して住んでいることから、これらの民族が相当に早い時期からこの地域に居住していたと考えることは、あながち間違っていないように思われる。

ビルマに住むカレン系民族のうち、社会的にも人口の多さからいっても優勢なグループは、スゴー・カレンとポー・カレンである。ビルマ語でカレン族 (/kayin\_/) といった場合、この2つのグループを指すことが多く、例えばカヤー族 (赤カレン) やパオー族などは含まないのが普通である。ただし、何ををもって「カレン族」だとするかの基準は必ずしも明確ではない。1993年に発表されたビルマ政府の推定では、「カレン族」のビルマ国内における総数は約286万人となっている。

カレン族の自称は下位集団ごとに異なっている。スゴー・カレンの自称は「人間」を意味する /pyāk̄ɣ̄n̄s̄/ である。スゴー・カレンとポー・カレンを特に区別したい場合には前者を /pyāk̄ɣ̄n̄s̄ sȳs̄/ 後者を /pyāk̄ɣ̄n̄s̄ pyò/ と呼ぶ。ビルマ語でスゴー・カレンを /zago: kayin\_/、ポー・カレンを /pou: kayin\_/ と呼ぶのは、このスゴー・カレン語の呼称に由来すると考えられる。ポー・カレンの自称は、西部方言が /phlòun/ (チュウンビョー方言)、東部方言が /phlòun/ (パアン方言) である。この自称も元来は「人間」を意味していたと思われるが、東部方言では現在でも「人間」という意味で使われるのに対し、西部方言では「人間」という意味を失い、カレン族を指す呼称としてのみ使われている。スゴー・カレンとポー・カレンを区別する呼称は、西部方言と東部方言で異なる。西部方言では、スゴー・カレンを /phlòun phàthèi?/ (父方のカレン)、ポー・カレンを /phlòun mōthèi?/ (母方のカレン) と呼ぶ。一方、東部方言では、スゴー・カレンを /phlòun càn/ と呼び、ポー・カレンのことは /phlòun gū/ と呼ぶ。

ここに挙げたそれぞれの自称が、自分達の集団だけを指すものであるか、スゴー・カレン、ポー・カレン (あるいは他のカレン系民族) をも含めた「カレン族」一般をも指すものであるかは、個人によっても、あるいは使われる場面によっても異なる場合が多く、一概にいつてしまうことはできない。例えばスゴー・カレンの自称の /pyāk̄ɣ̄n̄s̄/ は、スゴー・カレンだけを指すこともあれば、スゴー・カレンとポー・カレン両方を指すこともある。また、ポー・カレン語東部方言の /phlòun/ は、東部地域に住むポー・カレンだけを指すこともあれば、東部地域、西部地域を含めたポー・カレンを指すこともあるし、はたまた、スゴー・カレン、ポー・カレン全体を含めた呼称として使われることもある。

スゴー・カレン語はポー・カレン語に比べると地域的方言差が小さく、異なる方言間でも意志疎通が可能なことが多い。これに対して、ポー・カレン語は方言が異なる



地図 各都市とカレン州の位置

と意志疎通がかなり困難になることがある。ポー・カレン語は、相互理解の程度を基準として、大きく2つの方言に分けることが可能である。イラワジ川（エヤワディー川）のデルタ地帯に広く分布する西部方言と、カレン州、モン州およびテナセリム管区（タニンダーイー管区）からタイ国西部にかけて分布する東部方言である。西部方言と東部方言は、様々なレベル、特に語彙と音韻のレベルにおいて大きく異なっている。筆者は、西部方言の話し手と東部方言の話し手が会する場面に何度か接すること

ができたが、観察したところでは、ポー・カレン語を使っただけの会話はよほど簡単な内容を話す場合を除いて不可能であった。ビルマのカレン族の間では、カレン語にはスゴー・カレン語と、西部ポー・カレン語、東部ポー・カレン語の3種類があるとされることが多い。

現在にいたるまで、カレン語を表記する文字には様々なものが考案されている。その中で最も広く普及しているのは、キリスト教スゴー・カレン文字、キリスト教ポー・カレン文字、仏教ポー・カレン文字の3種類である。キリスト教スゴー・カレン文字は1832年に、キリスト教ポー・カレン文字は1852年に、どちらもビルマ文字に基づいてアメリカ人宣教師により考案されたものである。この2つは極めて合理的にできているため、ビルマ文字を使いこなす能力さえあれば、修得はかなり容易である。一方、仏教ポー・カレン文字は、モン文字に範をとり、一部にビルマ文字の表記法を取り入れたものである。正確な起源は明らかではないが、少なくとも19世紀の中葉まではその歴史をさかのぼることができる（伝説上はこの3つの中で最古のものとする）。合理性の面からいえば、前二者に比べて劣るため、修得には少々努力を要する。その他には、仏教スゴー・カレン文字、レーケー教ポー・カレン文字などいくつかのものがあるが、普及の程度はごく小規模である。

キリスト教スゴー・カレン文字は、西はイラワジ・デルタから東はタイにいたるかなり広い地域のキリスト教徒スゴー・カレンによって使用されており、仏教徒の中にもこの文字の読み書きができる者がいる。一方、キリスト教ポー・カレン文字は、元来は東部方言に基づいて考案されたものの、仏教徒が圧倒的に多いこの地域では受け入れられず、かえって、その後キリスト教入信者の比較的多かったデルタ地帯で普及することになった。ただし、元々が東部方言の発音に基づいているため、西部方言を書き表すにはかなりの無理がある。そして、仏教ポー・カレン文字は、主にカレン州の僧院で使われているもので、この文字を使って多くの貝葉が書かれてきた。普及の程度は従来あまり高くはなかったが、普及運動の高まりとともに、現在ではこの文字を使って読み書きできる人がかなり増えている。

## 0.2. 本稿で扱う方言と本稿の目的

筆者は1992年10月から1995年3月までビルマ（ミャンマー）の首都ラングーンに留学し、その間、いくつかのカレン系言語を調査・学習する機会を得た。本稿の主たる目的は、これらのカレン系言語のうち、ポー・カレン語（英語 Pwo Karen, Pho Karen, ビルマ語 /pou: kayin\_/) に属する3つの方言の音韻体系を提示することであ

る。

ポー・カレン語が東部方言と西部方言の2つに大きく分かれることは上で述べた通りであるが、本稿で扱うポー・カレン語の方言は、西部方言のうちイラワジ・デルタの小都市<sup>3</sup> ヨウンビョー（ビルマ語 /coun\_byo\_/）の方言と、東部方言のうちカレン州の州都パアン（ビルマ語 /phaan\_/）の方言、およびテナセリム管区の中都市タボイ（ビルマ語 /dawe\_/、英語名 Tavoy）の方言である。3方言とも、この地域の他の諸言語と同様に単音節言語的な特徴を持っており、音節内部の記述が、音韻体系を記述する際の中心となる。

ポー・カレン語の音韻体系についての先行研究としては、Jones [1961] と、Cooke et al. [1976] がある。

Jones のものはバセイン（ビルマ語 /batxein\_/、英語名 Bassein）の方言と、モールメイン（ビルマ語 /mo\_lamyain\_/、英語名 Moulmein）の方言に関する簡単な記述である。Jones の研究は通時論に主眼を置いたものであり、音韻分析も、比較研究に便利にならざるを得ないようになされていて、必ずしも共時態をありのままに反映したものではない。このため、ヨウンビョー方言とバセイン方言にはさしたる違いがないにもかかわらず、Jones のバセイン方言の記述と本稿のヨウンビョー方言の記述を見比べると、あたかも非常に異なる方言であるかのような印象を受けるかもしれない。本稿のパアン方言の記述と、Jones のモールメイン方言の記述の違いについても、同じことがいえる。

Cooke et al. はタイ側の Hot District の方言の記述である。この方言は、東部・西部と大きく2つに分けたうちの東部方言に属する。この記述を見る限り、Hot の方言は、本稿のパアン方言やタボイ方言と大局的には類似しているといっていざらう。しかしながら、相違点が相当多いのも事実である。

ヨウンビョー方言とパアン方言の調査は1993年から1995年まで長期的に行うことができた。調査地は、前者がヤンゴンおよびヨウンビョー、後者がヤンゴンおよびパアンである。タボイ方言の調査は、インフォーマントがヤンゴン滞在中にのみ行ったため、散発的にならざるを得なかった。なお、3方言とも、調査にあたってはビルマ語を媒介言語として使用した。



## 1. チョウンビョー方言

チョウンビョー方言は西部方言に属する方言のひとつである。近郊の大都市バセイン (Bassein, Bathein) の方言とは、音韻のレベルにおいても、文法のレベルにおいても、大きくは変わらない。調査のインフォーマントは、主に、Dahlia Win さん (30代・女性) にお願ひした。

### 1.1. 音節構造

チョウンビョー方言の音節構造は、一般的に C1(C2) V1(V2) (C3)/T と表すことができる。C は子音、V は母音である。斜線の後ろの T は、音節全体にかぶさる声調を表す。子音のうち、C1 を頭子音、C2 を介子音、C3 を末子音と呼ぶ。末子音として現れるのは、声門閉鎖音 /ʔ/ と、母音を鼻音化する要素としての /n/ のみである。また、V1 から C3 までの部分を、特に、韻母と呼ぶことにする。( ) 内は任意の要素である。

### 1.2. 子音

子音音素には、下に示す27個がある。なお、/ph, th, kh, sh/ はクラスターではなく、単一の子音である (バアン方言, タボイ方言でも同様)。

閉鎖音	p	θ	t	c	k	ʔ	摩擦音	s	ç	x
	ph	th		kh			sh			
	b	d					z	y		
	b	ð								
鼻音	m	n	ɲ	ŋ	半母音	w	j	流音	l	r

次に、上記子音音素の音声学的説明を加え、語例を添える。

/p/ 無声無気両唇閉鎖音 [p]。

/pʰnâ/ 水牛, /pʰçá/ 人, /θèinpà/ 板

/θ/ 無声無気歯間閉鎖音 [t̪]。ビルマ語の /θ/ よりも開放がゆるやかで、破擦音 [t̪θ] に

なることも多い<sup>2)</sup>。

/θi/ 死ぬ, /θóʔ/ 友人, /θè/ できる (能力)

/t/ 無声無気歯茎閉鎖音 [t]。

/táin/ 作る, /tíʔ/ 建物・ぶつかる, /tǝwàn/ 村

/c/ 音声学的には, 無声無気の歯茎硬口蓋破擦音 [tɕ] である。

/cà/ ~ 回, /cǝ/ 怠惰な, /còuʔ/ 引っ張る

この音素は, 指大辞 /ci/ (おそらくビルマ語 /ci:/ の借用語) の場合に限って [dzí] と発音されることがあるが, 借用語である可能性が高いことと, /ci/ そのものが極めて口語的な言い方であることから, この音に対して独立の音素を設定することはしない。

(例)

/phâʔ dò cí/ [phâʔ dò tɕí~phâʔ dò dzí] たいへん大きい

(/phâʔ/ = カレン語固有の指大辞, /dò/ 大きい)

/k/ 無声無気軟口蓋閉鎖音 [k]。

/kàin/ 曲がった, /kà/ 難しい, /kòʔ/ 呼ぶ

次の3語に限って, /k/ が有声閉鎖音 [g] で発音されることがある。

/mànkánèin/ [mànkánèin~màngánèin] 去年

/mànkúnèin/ [mànkúnèin~màngúnèin] 一昨年

/kánká/ [kánká~kángá] 討議する

ただし, このような発音はぞんざいな発音とみなされており, あらたまった場での発話や, 丁寧な発話には現れない。よって本稿では, この [g] に対して独立の音素を設定することはしない。

/ʔ/ 声門閉鎖音 [ʔ]。

/méʔáin/ もち米, /ʔàin/ 狭い, /ʔà/ 多い

/ph/ 無声有気両唇閉鎖音 [ph]。

/phó/ 読む, /phóʔ/ 欠ける, /phò/ 子供

/th/ 無声有気歯茎閉鎖音 [th]。

/thi/ 水, /théʔ/ 切れる, /thâu/ 収容できる

/kh/ 無声有気軟口蓋閉鎖音 [kh]。

/khâ/ 折れる, /khàn/ 足, /khêiʔ/ 暗い

2) この音を正確に表す IPA がないため, ビルマ語の /θ/ の発音を表すによく用いられる [t] を使っておく。同様に /ð/ についても [d] を使う。

/b/ 両唇入破音 (implosive) [b̥]。有声両唇閉鎖音 [b] と対立する。このような対立は、バアン方言やタボイ方言には見られない<sup>3)</sup>。

/bá/ 信仰する, /b̥/ 石灰, /bà/ 正しい

/d/ 歯茎入破音 [d̥]。/b/ の場合と違って、対立する egressive な閉鎖音は存在しない。対立はないとはいっても、常に入破音 [d̥] で発音され、egressive な [d] になることは決してない。

/d̥á/ 見える, /d̥èin/ 胡麻, /d̥óʔ/ (水を) ためる

/b/ 有声両唇閉鎖音 [b]。この音素を有する語は少ないが、次の6つの形式に現れる。

/b̥/ ~よ, ~だよ (文末助詞の一)

/b̥j̥s̥/ このように

/b̥n̥s̥/ そのように

/báθl/ 私達 (1人称複数代名詞独立形)

/b̥/ ~の中 (< /ʔ̥ph̥/ 中)

/bá/ 私達 (1人称複数代名詞後置形)

このうち下の2つは、次に掲げるように、丁寧な発話においてそれぞれ [ph̥] および [pá] と発音されることがある。しかし、普通の発話では [b] と発音されることがほとんどである。

[j̥èin b̥] 家の中 (/j̥èin/=家)

丁寧な発音: [j̥èin ph̥]

[másh̥n bá] 私達を手伝ってくれ (/másh̥n/ =手伝う)

丁寧な発音: [másh̥n pá]

一方、/b̥/ と /bá/ 以外の4つは、常に egressive な [b] で発音される。次に、/b/ と /b/ が意味の区別に関与している例を挙げておく。

A. (1) /ʔ̥j̥s̥ b̥/ この中 (/ʔ̥j̥s̥/ =これ)

(2) /ʔ̥j̥s̥ b̥/ これは薄い (/b̥/ =薄い)

B. (1) /bà bá/ 私達にぶつかった (/bà/ =ぶつかる)

(2) /bà b̥á/ 拝まなければならない (/bà/ =~しなければならない, /b̥á/=拝む)

3) 不思議なことに、入破音を持たないビルマ語との接触が多い西部諸方言には入破音がよく保たれており、入破音を持つモン語との接触が多いはずの東部諸方言では入破音が弱くなっていることが多い。

/ð/ 有声歯間閉鎖音 [d]。この音が現れる例はきわめて少なく、次の2例しか見つかっていない。

/ðé/ [文末助詞の一] (～する) ね

/ðèiʔ/ [助詞の一] まだ～である (/dèiʔ/ のぞんざいな言い方)

/s/ 無声無気歯茎摩擦音 [s]。

/sù/ 手, /sàin/ 走る, /sé/ 銀

/sh/ 無声有気歯茎摩擦音 [sh]。なお、ビルマ語の /s/ : /sh/ の対立は一部の地方で消滅しているが、ポー・カレン語チョウンビョー方言では、この対立は明確に保持されている。

/shôʔ/ 運ぶ, /shÿ/ 臼, /shÿ/ 雨が降る

/z/ 有声歯茎摩擦音 [z]。借用語などにまれに現れる。

/zé/ 市場

/jÿ-zÿ/ 私の物 (/jÿ-/ = 1人称単数代名詞前置形, /zÿ/ = 物。形態素 /shÿ/ の異形態。形態素 /shÿ/ は、代名詞前置形の後ろでしばしば /zÿ/ となる。)

/ç/ 無声歯茎硬口蓋音 [ç]。

/çá/ 少ない, /çà/ 星, /méinçá/ 義父・義母

/x/ 無声軟口蓋摩擦音 [x]。

/xèʔ/ 刀, /ʔànɣwé/ 買う, /xàin/ 乾く

/ɣ/ 有声軟口蓋摩擦音 [ɣ]。

/ɣáʔphâʔ/ 歩く, /nâyÿ/ 聞こえる, /yé/ 良い

一部の付属形式の初頭に現れるとき、弱化して口蓋垂摩擦音 [ʁ] になることがある。例えば、

/ʔÿjós yà/ [ʔÿjós ɣà] これですか (/ʔÿjós/ = これ, /yà/ = 疑問の終助詞)

/wâisáu ɣÿ/ [wâisáu ʁÿ] 兄よ (/wâisáu/ = 兄, /ɣÿ/ = 呼びかけの助詞)

チョウンビョー方言の場合、丁寧に注意深い発音ではこれらの例も常に [ɣ] と発音される。パアン方言やタボイ方言では、このような [ʁ] が [ɣ] と発音されることは決していない。

/m/ 有声両唇鼻音 [m]。

/mà/ 妻, /má/ する・作る, /mè/ 火

/n/ 有声歯茎鼻音 [n]。

/nèin/ 年, /nái/ 信じる, /ni/ 2 (数詞)

/p/ 有声硬口蓋鼻音 [p̚]。出現はまれである。

/p̚ôʔθà/ ヤエヤマアオキの実

/ŋ/ 有声軟口蓋鼻音 [ŋ̚]。

/ŋâŋʂ/ 狂人, /m̃ŋâ/ 良い (/yé/ の口語的表現)

/w/ 有声両唇半母音 [w̚]。

/wâi/ 兄・姉, /wà/ 竹, /ʔŋwè/ 3人称単数代名詞

/j/ 有声硬口蓋半母音 [j̚]。前舌母音の前では摩擦音的のそり音が強くなる傾向がある。

/jèin/ 家, /jà/ 魚, /jáʔ/ 破れる, /jàu/ 易しい

/l/ 有声歯茎側音 (側面音) [l̥]。

/lèiʔ/ 文字, /lá/ 月, /lân/ 場所

/r/ 有声歯茎無摩擦継続音 [r̥]。舌端が歯茎の後部に向かって持ち上がり、少しそり舌気味に発音される。東部諸方言と異なって、せん動音 [r] になることはない。

/nàri/ 時間, /t̃ràn/ ドア, /sh̃rà/ 先生

### 1.3. 子音結合

C2 の位置に現れることができる子音 (介子音) は/w, l, r, j/ の4つである。子音音素のうち17個が、C1 (頭子音) としてこれらの介子音を従えることができる。C1 と C2 との可能な組み合わせを表にして示す。

C2\C1	p	θ	t	k	ʔ	ph	th	kh	ʂ	ɸ	s	sh	x	m	n	j	l
w	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
l	○			○	○		○	○						○			
r	○			○													
j	○					○		○						○			

(例) /pwi/ 疲れた, /pláu/ 無駄な, /prý/ 競う, /pjôʔ/ 吐く, /θwi/ 血, /ʔŋtwâʔ/ 問題, /lôʔkwé/ 遊ぶ, /klá/ 正確な, /krɪʔ/ ~しなければならない, /ʔwi/ おいしい, /phlâi/ 弟子, /phjà/ 市場, /thwi/ 犬, /khwà/ 男, /khlâu/ ござ, /ʂwá/ 白い, /ʂlò/ (味が) 薄い, /ʂjá/ 穏やかな, /ʔɸdwéphɸ/ 中身, /swá/ 這う, /shwi/ 去勢する, /xwikáin/ 痺れる, /mwè/ ~である, /mlôʔ/ 大砲, /ʔáméinʔámjó/ 何種類も, /nwi/ 7 (数詞), /jwá/ 流れる, /lwí/ 鳩

## 1.4. 母音

母音音素には次の10個がある。

i	i	ɯ	u
e	ɤ	o	
ɛ	a	ɔ	

これらの母音音素は単独で韻母になることもあるし、二重母音の形で韻母になったり、後ろに子音を従えて韻母になることもある。その組み合わせを、(1) 開音節韻母、(2) 末子音 /n/ を持つ閉音節韻母、(3) 末子音 /ʔ/ を持つ閉音節韻母、の3つに分類して次に示す。

### (1) 開音節韻母

i	i	ɯ	u	ai	au
e	ɤ	o			
ɛ	a	ɔ			

### (2) 末子音 /n/ を持つ閉音節韻母

ɤn	ein	ɤun	oun
an	ain		aun

### (3) 末子音 /ʔ/ を持つ閉音節韻母

	iʔ	eiʔ	ɤuʔ	ouʔ
eʔ				oʔ
	aʔ			

チュウンビョー方言の韻母はこれですべてである。同じ母音音素でも末子音を従えろと音声実現が異なる場合がある。次に、それぞれの韻母の音声学的説明をし、語例を示す。なお、二重母音はすべて、前部要素が強く後部要素が弱い。

### (1) 開音節韻母

/i/ 基本母音の [i] にほぼ同じ。

/li/ 風・空気, /shishà/ 小便する, /ni/ 笑う

/i/ 中舌非円唇狭母音 [i]。

/phi/ 短い, /shi/ 民族

/u/ 完全な非円唇母音ではなく, 軽い唇の突き出しを伴った [u]。

/phù/ 跳ねる, /mù/ 女, /phû/ 弟・妹

/u/ 基本母音の [u] にほぼ同じ。

/phù/ 祖父, /jú/ 飛ぶ, /jû/ ねずみ

/e/ 基本母音の [e] よりわずかに狭い [e<sup>-</sup>]。

/mé/ 御飯, /nê/ 得る, /lé/ 行く

/v/ 基本母音の [v] にほぼ同じ。軽声音節(後述)に現れる唯一の母音である。

/lɛ/ 場所を表す前置詞, /vâithɛ/ 立つ, /khɛ/ 固い, /dâðɛ/ 末っ子

/o/ 基本母音の [o] よりわずかに狭い [o<sup>-</sup>]。

/mô/ 母, /jô/ 見る, /khô/ 頭

/ɛ/ 基本母音の [ɛ] にほぼ同じ。

/kàinkwɛ/ ずるい, /mwɛ/ ~である, /lɛlɛ/ グラグラする

/a/ 中舌広母音の [a] である。

/mà/ ワニ, /nâ/ 耳, /wá/ 夫

/ɔ/ 基本母音の [ɔ] にほぼ同じ。

/tɔ/ まっすぐな, /ʔànkɔ/ 非難する, /nɔ/ あの(指示代名詞)

/ai/ 中舌広母音 [a] から基本母音の [i] に移行する二重母音 [ai]。

/jâi/ 5(数詞), /ʔâi/ 愛する, /dʔwʔnâi/ 見せる

/au/ 中舌広母音 [a] から, /u/ よりも少し広い [u] に移行する二重母音 [au]。

/láu/ 語る, /ʔâu/ いる・ある, /thâu/ 高い・長い

## (2) 末子音 /n/ を持つ閉音節韻母

末子音の /n/ は, 音声学的には前の母音を鼻音化する要素である。鼻音化は母音の最初の部分から生じるのではなく, 母音の最後尾で生じる。従って, 二重母音の場合, 鼻音化するのには後部要素のみである。

なお, 鼻音化が末尾で起こることを示すため, 鼻音化記号 [̃] は母音の上ではなく後ろに置く。

/vn/ 開音節韻母の /v/ より若干低い [ṽɾ̃] である。

/phṽnθẫʔ/ 道

/an/ 鼻音化した中舌広母音 [ã]。

/ʔàn/ 食べる, /lán/ 落ちる, /thàn/ 上る

/ein/ 基本母音の [e] から基本母音の [i] に移行する二重母音 [eĩ]。

/méin/ 名, /shèin/ 清らかな, /nèin/ 年, /ʔànléin/ 借りる

/vuun/ [v] から [w] に移行する二重母音 [vũ]。唇の突き出しを若干伴う。極めて出現頻度が低く、下の1例しか見付かっている。

/mátvuun/ 脅す

/oun/ 基本母音の [o] から基本母音の [u] に移行する二重母音 [oũ]。

/phòun/ 穴があく, /dóun/ 町, /thòun/ 送る

/ain/ 中舌広母音の [a] から基本母音の [i] に移行する二重母音 [aiñ]。

/jáin/ 遠い, /tháin/ 帰る, /khàin/ 後ろ

/aun/ 中舌広母音の [a] から、単独の /u/ よりも少し広い [u] に移行する二重母音 [aũ]。

/khàun/ 外, /shàun/ 強い, /tháun/ 橋

### (3) 末子音 /ʔ/ を持つ閉音節韻母

このタイプの韻母と声調の間には共起制限があり、下降調 /˥/ のみがこのタイプの韻母と共起できる。なお、現在、末子音 /ʔ/ は発音されなくなる傾向にあるようであり、人によっては /˥/ と /ʔ˥/ の区別を持っていないようである。ただし、末子音 /-ʔ/ が発音されない場合でも、/e/ と /o/ については、「開音節韻母の場合よりも末子音 /ʔ/ を持つ場合のほうが口の開きが広い」という特徴が保持されていることが多く、これが将来、母音音素の対立として残される可能性もあると思われる。

/iʔ/ 母音部分は開音節韻母の /i/ とほとんど同じである。[iʔ]。

/kriʔ/ ~しなければならぬ, /iʔiʔ/ ぶつかる; 建物

/eʔ/ 母音部分は、開音節韻母の /e/ よりも少し広めに発音される。[eʔ]。

/mêʔ/ 顔, /shêʔ/ 指す, /lánthêʔ/ 落ちる

/oʔ/ 母音部分は、開音節韻母の /o/ よりも少し広めに発音される。[oʔ]。

/thôʔ/ 豚, /kôʔ/ 呼ぶ, /θimôʔ/ たばこ

/aʔ/ 母音部分は、開音節韻母の /a/ とほとんど同じである。[aʔ]。

/thâʔ/ 針・鉄, /shâʔ/ 縫う, /jâʔ/ 破れる

/eiʔ/ 母音の調音位置は /ein/ とほとんど同じ, [eiʔ]。



/shêiʔ/ 田, /bêiʔ/ ふさがる, /jêiʔ/ 久しい  
 /vuʔ/ [v] から [u] に移行する二重母音だが, /vuun/ と同様, 唇のわずかな突き出しを伴う。

/dʷiʔ/ 戦う, /mʷiʔ/ 快適な, /nʷiʔ/ 入る  
 /ouʔ/ 母音の調音位置は /oun/ とほとんど同じ, [ouʔ]。  
 /dôuʔ/ 部屋, /lôuʔ/ 尽きる, /thôuʔ/ こする

## 1.5. 声調

### 1.5.1. 声調素

チョウンビョー方言の声調素には, 次に掲げる3つがある。

/´/ 高平調 (たかだいらちょう)  
 /˘/ 低平調 (ひくだいらちょう)  
 /ˆ/ 下降調 (かこうちょう)

このうち下降調は, 末子音 /ʔ/ がある場合とない場合とで音声実現がわずかに異なる。高平調と低平調は末子音 /ʔ/ とは共起しない。以下に3つの声調素の音声学的説明を行う。

/´/ [┌ 55] 高く平らに発音される。Jones [1961] の Bassein Pho の /´/ に対応する。  
 Jones [1961: 69] の図では上昇を伴うかのように描いてあるが, 西部方言一般に, この声調は上昇を伴わないのが普通である。

/yá/ ~人 (助数詞), /má/ する・作る, /ná/ 夜  
 /˘/ [└ 11] 低く平らに発音される。

/khà/ 苦い, /mà/ 妻, /shà/ 痛い  
 /ˆ/ ① [↘ 51] (開音節および末子音 /-n/ を持つ閉音節の場合) 高い位置から低い位置に急激に下降する。喉頭の緊張を伴うことがある。

/khâ/ 折れる, /mô/ 母, /phâ/ 父, /mê/ しっぽ, /jô/ 見る  
 ② [┘ 53] (末子音 /ʔ/ を持つ閉音節の場合) 高い位置から急激に下降するが, 下降は声門閉鎖音によって中ほどの高さで止められる。

/thâʔ/ 針, /mêʔ/ 顔, /shôʔ/ 運ぶ, /jôʔ/ 持ち上げる

1.4で、末子音 /ʔ/ が発音されなくなる傾向にあるということを述べたが、これに伴って、下降調 /˨/ の2つの声調型 [51] と [53] も、[51] に収束する傾向がある。

Jones [1961: 69] も Bassein 方言について同様のことを指摘している。Jones は、本稿の /˨/ と /˨ʔ/ に対応するものとしてそれぞれ /ʔ/ と /ʔ/ を設定しており、この2つの声調型について、識字者のみが無理に (artificial) 区別するものの口語では区別されない、と述べているが、チョウンビョー方言の場合、この区別の有無と識字者であるか否かには直接的な関係は認められなかった。

なお、イントネーションがかぶさることによって、声調のピッチが変化することがある。例えば、疑問の文末助詞 /ɣà/ は、低く平らに発音されずに、上昇してのち下降する [131] のようなピッチで発音されることがある。

### 1.5.2. 声調素の交替

チョウンビョー方言では、一部の語彙に声調素の交替が観察される。この現象は特に数詞に顕著に見られる。チョウンビョー方言の数詞は次の通りである。

/lɨ/ 1, /nì/ 2, /θɨ/ 3, /lì/ 4, /jâi/ 5

/xù/ 6, /nwi/ 7, /xôʔ/ 8, /khwi/ 9, /shi/ 10

単独で発音されたときに低平調 /˨/ の数詞は、助数詞や10, 100などの数詞が後ろにある場合、高平調 /˨˨/ で発音される。( /lɨ/ は除く)

/ní nèn/ 2年, /θɨ nèn/ 3年, /xú nèn/ 6年

/nwi nèn/ 7年, /khwi nèn/ 9年, /shí nèn/ 10年

/ní ɣá/ 2人, /θɨ 6âʔ/ 3チャット (通貨)

/ní shì lí nèn/ 24年

注: /lɨ/ 1 の場合は、助数詞を従えると、別の形式 /kɨ-/ と交替する。

ex.) /kɨ- nèn/

同じような現象は、下に挙げるようないくつかの語彙に観察される。しかし、数詞の場合と違って /˨/ → /˨˨/ の交替は必須ではない。

/mikhèn~míkhèn/ うとうとする

/nɨmɨ~nɨmɨ/ 香る

/ʔɨphànkò~ʔɨphánkò/ 上

## 1.6. 軽声音節

音節の中には、声調を持たず、強勢もないものがある。これを軽声音節と呼ぶ。軽

声音節に現れる母音は /ɤ/ のみである。チョウンビョー方言の場合、軽声音節のピッチは、多少環境によって左右されるものの、中くらいの高さで発音されることが多い。表記は /Cɤ/ とする。軽声音節は、決して発話末 (utterance final) に現れることがない。なお、一部の非自立語には、軽声音節で終わるものがあるが、その場合は後ろに別の語を従えなければ発話できないことを明示するため、ハイフンを付けて /Cɤ-/ と表記することにする。

/pʰlôuʔ/ シャツ, /kʰshêiʔ/ 少し, /thv̄jâʔ/ 推定する  
 /n̄- lèiʔʔôuʔ/ (2人称代名詞前置形一本) あなたの本  
 /shv̄- khláin/ (名詞形成接頭辞一話す) 言葉

### 1.7. 分布の制限

頭子音と声調の間に共起制限がある。頭子音 /p, t, c, k, ʔ, b, d, s/ (おそらく歴史的な無声閉鎖音の系列) で始まる音節は、下降調 /˥/ と共起しない。ただし、音節末に末子音として /-ʔ/ を従えた場合を除く。

## 2. パアン方言

パアン方言は東部方言に属する方言のひとつであり、カレン州の州都パアンで話されている。周辺のコーカレイ (ビルマ語 /ko.kareiʔ/)、フラインボエー (同 /hlain: bwe:/), モールメイン (同 /mo\_lamyain\_/) などの方言とは大きな違いはないが、細部には様々な差異も認められる。スゴー・カレン語、ポー・カレン語一般にモン語 (Mon) からの借用語が少なくないのだが、パアン方言はモン語との接触が多いためか、際立ってモン語からの借用語が多い。現在、カレン州に住む仏教徒のポー・カレンによって広く使用されている仏教ポー・カレン文字は、パアン方言の音韻体系を強く反映している。

調査のインフォーマントは主に、Saw Hla Chit さん (40代・男性) にお願ひした。

### 2.1. 音節構造

パアン方言の音節構造は、一般的に C1(C2) V1(V2) (C3)/T と表すことができる。末子音 C3 として現れることができるのは、チョウンビョー方言と違って、/n/ のみである。

## 2.2. 子音

子音音素には、下に示す24個がある。

閉鎖音	p	θ	t	c	k	ʔ	摩擦音	ç	x	h		
	ph		th	ch	kh							
	b		d					y	ɣ			
鼻音	m	n	ɲ				半母音	w	j	流音	l	r

次に、上記子音音素の音声学的説明を行う。

/p/ 無声無気両唇閉鎖音 [p]。

/pǎnǎ/ 水牛, /pǎ/ 読む (cf.Mon/pòh/), /pàu/ 開ける

/θ/ 無声無気歯間閉鎖音 [t̪]。チョウンビョー方言と同じく、ビルマ語の /θ/ よりも開放がゆるやかで、破擦音 [t̪θ] になることも多い。

/θi/ 死ぬ, /θò/ 友人, /θi/ できる (能力)

/t/ 無声無気歯茎閉鎖音 [t̪]。

/tǎin/ 作る, /tǎu/ 建物, /tǎwǎn/ 村

/c/ 音声学的には、無声無気の歯茎硬口蓋破擦音 [t̪ç] である。時に、自由変異として無声無気の歯茎摩擦音 [s] になることがある。[s] になるのは、書かれたものを読むときや演説など、かしくまった場面であることが多い。通常の会話では普通 [t̪ç] と発音される<sup>4)</sup>。

/cú/ 手, /cáin/ 歩く, /ci/ 銀

/k/ 無声無気軟口蓋閉鎖音 [k]。

/káin/ 曲がった, /ká/ 難しい, /kò/ 呼ぶ

/ʔ/ 声門閉鎖音 [ʔ]。

/miʔǎin/ もち米, /ʔéin/ 狭い, /ʔá/ 多い

/ph/ 無声有気両唇閉鎖音 [ph]。

/phó/ 欠ける, /phú/ 子供, /phā/ 父, /phjá/ 僧院・学校 (Cf.Mon/phèa/)

4) 同じ東部方言でも、モールメイン付近のポー・カレン語では /c/ が [s] で発音されることが多い。

/th/ 無声有気歯茎閉鎖音 [th]。

/thĩ/ 水, /thé/ 切れる, /thõ/ 収容できる

/ch/ 音声学的には、無声有気の歯茎硬口蓋破擦音 [tʃ] である。/c/ と同様に、自由変異として、無声有気の歯茎摩擦音 [ʃ] になることがある。[ʃ] になるのは、やはり、かしくまった場面での発話においてである。

/chó/ 運ぶ, /chʷun/ 臼, /chʷn/ 雨が降る

/kh/ 無声有気軟口蓋閉鎖音 [kh]。

/khā/ 折れる, /khán/ 足, /khài/ 暗い

/b/ 両唇入破音 (implosive) [ɓ]。入破音の喉頭化はチョウンビョー方言よりも弱く、ときとして egressive な [b] になることがある。チョウンビョー方言のような /b/ : /b/ の対立はない。

/bà/ 信仰する, /bʷn/ 石灰, /bá/ 正しい

/d/ 歯茎入破音 [ɗ]。丁寧な発音では入破音 [ɗ] になるのだが、通常の会話では egressive な [d] で発音されることが多い。egressive な発音になる頻度は /b/ よりも高い。

/dá/ 見える, /déin/ 胡麻, /dò/ (水) ためる

/c/ 無声歯茎硬口蓋音 [c]。人によっては [s] に近く発音することもある。しかしそのような人でも、/c, ch/ を [s, ʃ] と発音するような場面では明確に [c] と発音する。

/cà/ 少ない, /cá/ 星, /mèincā/ 義父・義母

/x/ 無声軟口蓋摩擦音 [x]。

/xé/ 刀, /ʔánxwè/ 買う, /xáin/ 乾く

/y/ 有声軟口蓋摩擦音 [ɣ]。

/yéin/ 家, /náyɣn/ 聞こえる, /yi/ 良い

/ɣ/ 有声口蓋垂摩擦音 [ɣ̥]。チョウンビョー方言では、[ɣ̥] を /y/ の弱化した異音であると考えたが、それは、[ɣ̥] を [y] と発音しても良いからであった。パアン方言では、[ɣ̥] が [y] と発音されることはないので、独立の音素として設定する<sup>5)</sup>。

/ɣā/ ~か (疑問の終助詞), /ɣ̥/ ~よ (呼びかけの終助詞)

/h/ 無声声門摩擦音 [h]。この音はチョウンビョー方言やタボイ方言にはない。

/h̥phloun/ 人, /hwéph̥n/ 高床式家屋の床下, /hàidài/ 便所

5) Purser [1922: 174] には、この音を表す文字の発音を Voiced H と説明してあるが、本稿で扱う3方言には有声の [h] は存在しない。ただし、スゴー・カレン語には有声の [h] が存在する。スゴーカレン語については加藤 [1993] を参照。

/m/ 有声両唇鼻音 [m]。

/mâ/ 妻, /mà/ する・作る, /mí/ 火

/n/ 有声歯茎鼻音 [n]。

/néin/ 年, /nè/ 信じる, /ní/ 2 (数詞)

/ɲ/ 有声硬口蓋鼻音 [ɲ]。

/jãthÿɲã/ 祈る (cf.Mon/rɛatənɛã/), /kÿɲã/ (僧侶が) 来る, /pÿɲã/ あぜ道

/w/ 有声両唇半母音 [w]。

/wê/ 兄・姉, /wá/ 竹, /ʔÿwê/ 3人称単数代名詞

/j/ 有声硬口蓋半母音 [j]。前舌母音の前では摩擦音のそ音が強くなる傾向がある。

/já/ 魚; 破れる, /jã/ 易しい, /jê/ 5 (数詞)

/l/ 有声歯茎側音 (側面音) [l]。

/láí/ 文字, /là/ 月, /lan/ 場所

/r/ 有声歯茎せん動音 [r]。ただし、通常の会話では弾き音や [l] で発音する人も多いようである。

/pãitÿrã/ ドア, /thÿràí/ 費用, /thÿrê/ 野鹿

### 2.3. 子音結合

C2 の位置に現れることができる子音 (介子音) は、チョウンビョー方言と同様、/w, l, r, j/ の4つである。子音音素のうち18個が、C1 (頭子音) としてこれらの介子音を従えることができる。C1 と C2 との可能な組み合わせを表にして示す。

C2\C1	p	θ	t	c	k	ʔ	ph	th	ch	kh	b	d	x	h	m	n	j	l
w	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
l	○				○	○			○	○					○			
r	○				○													
j	○						○				○				○			○

(例) /pwài/ 疲れた, /plò/ 無駄な, /prÿn/ 競う, /pjò/ 吐く, /θwi/ 血, /ʔÿtwà/ 問題, /cwà/ 這う, /lókwe/ 遊ぶ, /klà/ 正確な, /krì/ ~しなければならない, /ʔwi/ おいしい, /phlê/ 弟子, /phjã/ 市場 (cf.Mon/phyã/), /thwí/ 犬, /chwí/ 去勢する, /khwã/ 男, /khló/ ござ, /bwé/ 盛る, /blà/ (味が) 薄い, /bjã/ 直す・治す, /dwà/ 数える, /xwikãin/ だるい, /hwéphÿn/ 高床式家屋の床下, /mwê/ ~である,

/kʲmlʲn/ 井戸, /tʲmjân/ 奇妙な (Cf. Mon/təmeaŋ/), /nwē/ ジャックフルーツ,  
/jwà/ 鏡, /lwī/ 鳩, /kʲljân/ 帰る (cf. Mon/kəleaŋ/)

## 2.4. 母音

母音音素には次の11個がある。

i	ɨ	u
	ɪ	ʊ
e	ɤ	o
ɛ	a	ɔ

パアン方言は末子音として /ʔ/ をとらないので、韻母には、(1) 開音節韻母, (2) 末子音 /n/ を持つ閉音節韻母, の2種類しかない。

### (1) 開音節韻母

i	ɨ	u	ai	aʊ
	ɪ	ʊ		
e	ɤ	o		
ɛ	a	ɔ		

### (2) 末子音 /n/ を持つ閉音節韻母

	ɤn	ein	ɤun	oun
an		on	ain	

次に、それぞれの音声学的説明を行う。なお、チョウンビョー方言と同じく、二重母音はすべて、前部要素が強く後部要素が弱い。

### (1) 開音節韻母

/i/ 入り渡りに中舌寄りの [i] が現れて、[ii] となる。直前に /w/ があるときにはこの入り渡りは現れない。

/li/ 風, /chíchâ/ 小便する, /ni/ 笑う, /θwi/ 血

/i/ 中舌非円唇狭母音 [i]。

/phi/ 短い, /chi/ 民族, /chviki/ ずいぶん

/u/ 2個の異音がある。両唇音すなわち/p, ph, b, m/の後ろでは、基本母音の [u] に近く、唇の突き出しを伴わない。それ以外の場合には唇の軽い突き出しを伴って発音される。

/phû/ 跳ねる; 祖父, /mû/ 女, /phû/ 弟・妹, /jû/ 飛ぶ

/jû/ ねずみ, /çúmáus/ 平和な

/i/ 基本母音 [i] よりもわずかに低めの非円唇母音 [i]。/w/ の後ろには現れない。なお、声調記号を付けたときの /i/ との混同を避けるため /i/ と表記する。

/ni/ 得る, /li/ 行く, /mi/ 御飯, /chi/ 刺す, /bi/ ヤギ

/u/ 基本母音 [u] よりもわずかに低めの円唇母音 [u]。

/mû/ 母, /jû/ 見る, /khú/ 頭, /phú/ 子供

/e/ 基本母音の [e] にほぼ同じ。

/mé/ 顔, /xé/ 刀, /dè/ ~と (並列), /nwê/ 7 (数詞)

/v/ 基本母音の [v] にほぼ同じ。軽声音節に現れる唯一の母音である。

/lÿ/ 場所を表す前置詞, /jÿ/ 1人称単数代名詞, /klÿ/ いつも

/o/ 基本母音の [o] にほぼ同じ。

/mó/ たばこ, /thò/ 豚

語によっては、/u/ と /o/ のどちらかで発音しても良い場合がある。

/kù~kò/ 呼ぶ, /chú~chó/ 持ち上げる

/e/ 基本母音の [e] にほぼ同じ。

/jê/ 5 (数詞), /?é/ 愛する, /dàuné/ 見せる

/mwê/ ~である, /lèlè/ グラグラする

/a/ 中舌広母音の [a] である。

/má/ ワニ, /nā/ 耳, /wà/ 夫

/ɔ/ 基本母音の [ɔ] にほぼ同じ。

/tò/ まっすぐな, /?ánkó/ 非難する, /nó/ あの (指示代名詞)

/ai/ 中舌広母音 [a] から基本母音の [i] に移行する二重母音 [ai]。

/chái/ 田, /bài/ ふさがる, /jái/ 久しい

/au/ 中舌広母音 [a] から [u] に移行する二重母音 [au]<sup>6)</sup>。

6) Cook et al. [1976]を見ると、Hot 方言ではこれに対応する韻母として /au?/ と /ai?/ の2 /



/dàu/ 戦う；部屋，/máu/ 快適な，/náu/ 入る  
/láu/ 尽きる，/thàu/ こする

(2) 末子音 /n/ を持つ閉音節韻母

チュウンビョー方言と同じく、末子音の /n/ は音声学的には前の母音を鼻音化する要素である。鼻音化は母音の最初の部分から生じるのではなく、母音の最後尾で生じる。従って、二重母音の場合には鼻音化するのは後部要素だけである。このこともチュウンビョー方言と同じである。

また、二重母音 /ein, vum, oun/ の3つは鼻音化が極めて弱く、鼻音化した部分がほとんど聞こえなくなることもある。

/vn/ 調音位置は開音節母音の /v/ とほとんど同じである。[ṽ]。

/khṽn/ 固い，/phṽnθà/ 道，/nṽn/ 臭い

/an/ 音声学的には、中舌広母音 [a] から基本母音の [A] に移行する [aÃ] である。これを音韻論的には /an/ と解釈する。

/ʔán/ 食べる，/làn/ 落ちる，/thán/ 上る

/on/ 開音節韻母の /o/ よりもやや中寄りの [õ] である。

/khôn/ 外，/chón/ 強い，/thòn/ 橋

/ein/ 基本母音の [e] から基本母音の [i] に移行する二重母音 [eĩ]。鼻音化は極めて弱い。

/mèin/ 名，/chêin/ 清らかな，/néin/ 年，/ʔánlèin/ 借りる

/vum/ 唇の軽い突き出しを伴った [vum̃] である。鼻音化は極めて弱い。

/thṽunlī/ 踊る，/khṽum/ 掘る，/θṽum/ 建てる

/oun/ 基本母音の [o] から [u] に移行する二重母音 [oũ]。鼻音化は極めて弱い。

/phōun/ 穴があく，/dòun/ 町，/θòun/ 送る

/tōun/ ドン・イェイン (ポー・カレンの集団舞踊)

なお、同じパアン市内でも、人によっては /vum/ と /oun/ の区別がなく、/oun/ ひとつになっている。これが地域的差異であるのか、年代的差異であるのか、あるいは個人差なのかは分からない。

/ain/ 中舌広母音 [a] から基本母音の [i] に移行する二重母音 [aĩ]。他の鼻音化二重母

ㄨ つがある。これはチュウンビョー方言の /ouʔ/ と /vumʔ/ に対応する。パアン方言とタボイ方言にはこれに対応する区別はない。

音と違って、鼻音化した部分は明瞭に聞こえる。これは開音節韻母 /ai/ との区別をはっきりさせるためかもしれない<sup>7)</sup>。

/jàin/ 遠い, /thàin/ 帰る, /khâin/ 後ろ

## 2.5. 声調

### 2.5.1. 声調素

パアン方言の声調素には、次に掲げる4つがある。

/´/ 高平調 (たかだいらちょう)

/ˊ/ 中平調 (なかだいらちょう)

/ˋ/ 低平調 (ひくだいらちょう)

/ˆ/ 下降調 (かこうちょう)

以下にそれぞれの音声学的説明を行う。

/´/ [┌ 55] 高く平らに発音される。この声調は Jones [1961] の Moulmein Pho の /´ʔ/ に対応する。Jones の記述によれば、モールメイン方言の /´ʔ/ は、本稿のタポイ方言の /´/ と同じように下降するようであるが [1961: 69], パアン方言の /´/ は、いかなる場合も下降せずに平らに発音される。

/khá/ 苦い, /má/ 誤った, /bá/ 正しい

/ˊ/ [┌ 33] 中ほどの高さで平らに発音される。単独で発音した場合や、ポーズの前などでわずかに上昇することがあるが、音韻論的には重要ではない。

/khā/ 折れる, /phā/ 父, /mū/ 母

/ˋ/ [┌ 11] 低く平らに発音される。この声調は Jones [1961] の Moulmein Pho の / / (無表記) に対応する。Jones [1961: 69] の図にあるモールメイン方言のこの声調は、中くらの高さで発音されるかのように表示してある。しかし、私の接したことのあるポー・カレン語東部方言では、これに対応する声調は低く平らに発音されるか、低く下降を伴って発音される (コーカレイ方言など) かのどちらかであった。

/yà/ ~人 (助数詞), /thà/ 針, /mà/ する・作る, /nà/ 夜

7) 面白いことに、この /ain/ は Cook et al. [1976] の Hot 方言における /ai/ に対応する。Hot 方言ではパアン方言とは逆に /ain/ が鼻音化部分を失う変化を起こしたのかもしれない。

/˨/ [˨ 51] 高い位置から最も低い位置へ急激に下降する。他の声調素と異なり、喉頭の緊張を伴って発音され、時には creaky になる。

/mâ/ 妻, /châ/ 痛い, /jâ/ 易しい

チョウンビョー方言と同様に、イントネーションがかぶさることによって、声調のピッチが変化することがある。例えば疑問の文末助詞 /râ/ は、時によって、上昇した後下降する [131] のようなピッチで発音されることがある。この現象は、チョウンビョー方言と非常によく似ている。

### 2.5.2. 声調素の交替

パアン方言には、次のような声調素の交替が観察される。

(1) チョウンビョー方言と同じように、数詞に声調の交替が起こる。パアン方言の数詞は次の通りである。

/lɿn/ 1, /nī/ 2, /θɿn/ 3, /lī/ 4, /jē/ 5

/xū/ 6, /nwē/ 7, /xó/ 8, /khwī/ 9, /chī/ 10

単独で発音されたときに下降調 /˨/ の数詞は、助数詞や10, 100などの数詞が後ろにあると、中平調 /˨/ で発音される。( /lɿn/ は除く)

/nī yà/ 2人, /θɿn yà/ 3人, /xū yà/ 6人

/nwē yà/ 7人, /khwī yà/ 9人

/θɿn néin/ 3年, /nī nàji/ 2時

/khwī chī xó béin/ 98枚

注1: /lɿn/ は助数詞を従えと、別の形式 /lǐ-/ と交替する。

ex.) /lǐ- yà/ 1人

注2: 「10人」は /ʔɿyà lǐ- chī/。

(2) 形態手続によって同一語中に下降調 /˨/ が2つ連続したとき、前側の下降調 /˨/ が低平調 /˨/ に交替することがある。ただしこの交替は必須ではない。

/thithichàchà/ 確かに < /thichà/ 確かな

/nɿnmɿn/ 香る < /nɿn/ におう + /mɿn/ 香る

(3) 疑問を表す助詞 /râ/ が文末に現れたとき、動詞の声調が中平調 /˨/ になるこ

とがある。

/bā rā/ 「正しいか？」 < /bá/ 正しい

正しい (疑問)

/nř- mřn rā/ 「お前は生きているか？」 < /mřn/ 生きている

2sg 生きている (疑問)

/nř- mř- thāin rā/ 「帰るのか？」 < /thāin/ 帰る

2sg (叙想) 帰る (疑問)

/nř- thāi khú rā/ 「髪を切るのか？」 < /thái/ 切る

2sg 切る 頭 (疑問)

中平調で発音すると丁寧になったり、念を押す意味合いが生じたりなど、特殊なニュアンスを含ませることができるようである。

完了アスペクトを表す助詞 /jàu/ や、事態生起の接近を表す助詞 /lɔ/ が現れた場合にも、動詞が中平調で発音されることがある。

/yōn jàu/ 「終わった」 < /yōn/ 終わる

終わる (完了)

/thāu jàu/ 「(雨が) やんだ」 < /tháu/ (雨が) やむ

やむ (完了)

/chř- mř- chřn lɔ/ 「雨が降るぞ」 < /chřn/ (雨が) 降る

(形式主語) (叙想) 降る (接近)

動詞の声調が中平調になることによって生じる意味には様々なものがあるようである。これを統一的にとらえることができるのかどうかは、現時点では分からない。

## 2.6. 軽声音節

バアン方言にも声調を持たず強勢もない音節、軽声音節がある。軽声音節に現れる母音は /ɤ/ のみである。チョウンビョー方言と同様、発話末に現れることは決してない。

/lřcè/ 少し, /hřmřní/ 人間

/nř- lái?àu/ (2人称単数代名詞前置形一本) あなたの本

/chř- khlàin/ (名詞形成接頭辞一話す) 言葉

/chř- ?àinlàn/ (名詞形成接頭辞一闘う) ボクシングを中心に据えたポー・カレン特有の祭

## 2.7. 分布の制限

頭子音と声調素の間に分布の制限があるようであり、子音 /p, t, c, k, ʔ, d, b/ で始まる音節が中平調 /ˊ/ と共起する例は、次のような借用語を除いて見付かっていない。

/kânkôn/ 運良く (cf. ビルマ語 /kan\_kaun: -/「運が良い」)

/pjônɲân/ 逆・反対 (cf. ビルマ語 /byaun: byan\_/「逆・反対」)

また、これらの子音が下降調 /ˋ/ と共起するのままれである。しかし、次のように若干の共起例がある。

/pî/ 小さい, /bê/ へのように

/kwâ/ 異なる (おそらくビルマ語/kwa\_-/ の借用語)

## 3. タボイ方言

タボイ方言は、パアン方言と同じく、東部方言に属する方言のひとつである。パアン方言とは音韻体系の上では少なからず異なっているけれども、西部方言との違いに比べれば似ており、基礎語彙なども大差ないため、さほど大きな困難を伴わずに意思の疎通ができる。モン語からの借用語はパアン方言ほどには多くない。

インフォーマントは Deborah さん (30代・女性) である。

### 3.1. 音節構造

タボイ方言の音節構造は、一般的に C1(C2) V1(V2) (C3)/T と表すことができる。末子音 C3 として現れることができるのは、チョウンビョー方言と同様に、声門閉鎖音 /ʔ/ と母音を鼻音化する要素としての /n/ の2つである。

### 3.2. 子音

子音音素には、下に示す22個がある。

閉鎖音	p	θ	t	c	k	ʔ	摩擦音	ç	x
	ph		th	ch	kh				
	b		d				ɣ	ʁ	
鼻音	m	n					半母音	w	j
							流音	l	r

次に、上記子音音素の音声学的説明を行う。

/p/ 無声無気両唇閉鎖音 [p]。

/p̃nā/ 水牛, /pō/ 読む, /p̃ʔòn/ 白蟻

/θ/ 無声無気歯間閉鎖音 [t̪]。他の2方言と同じく、ビルマ語の /θ/ よりも開放がゆるやかで、破擦音 [tθ] になることも多い。

/θēi/ 死ぬ, /θòʔ/ 友人, /θi/ できる (能力)

/t/ 無声無気歯茎閉鎖音 [t̪]。

/t̃àn/ 作る, /tiʔ/ 建物, /t̃wân/ 村

/c/ 音声学的には、無声無気の歯茎硬口蓋破擦音 [tɕ] である。時に、自由変異として無声無気の歯茎摩擦音 [s] になることがある。[s] になるのは、パアン方言とまったく同様、書かれたものを読むときや、演説するときなど、かしくまった場面においてである。通常の会話ではふつう [tɕ] と発音される。

/còu/ 手, /cáin/ 歩く, /cì/ 銀

/k/ 無声無気軟口蓋閉鎖音 [k]。

/káin/ 曲がった, /ká/ 難しい, /kòʔ/ 呼ぶ

/ʔ/ 声門閉鎖音 [ʔ]。

/miʔàin/ もち米, /ʔáin/ 狭い, /ʔá/ 多い

/ph/ 無声有気両唇閉鎖音 [ph]。

/phōʔ/ 欠ける, /phú/ 子供, /phā/ 父

/th/ 無声有気歯茎閉鎖音 [tʰ]。

/thèi/ 水, /thēʔ/ 切れる, /thō/ 収容できる

/ch/ 音声学的には、無声有気の歯茎硬口蓋破擦音 [tɕʰ] である。/c/ と同様に、自由変異として、無声有気の歯茎摩擦音 [sh] になることがある。[sh] になるのは、やはり、かしくまった場面での発話においてである。

/chōʔ/ 運ぶ, /ch̃n/ 白, /ch̃n/ 雨が降る

/kh/ 無声有気軟口蓋閉鎖音 [kh]。

/khā/ 折れる, /khán/ 足, /khàiʔ/ 暗い

/b/ 有声両唇閉鎖音 [b]。タボイ方言のこの音素は決して *implosive* にはならない。

/bà/ 信仰する, /b̃n/ 石灰, /bá/ 正しい

/d/ 有声歯茎閉鎖音 [d]。タボイ方言のこの音素は決して *implosive* にはならない。

/dá/ 見える, /d̃in/ 胡麻, /dòʔ/ (水) ためる

/ɕ/ 無声歯茎硬口蓋音 [ɕ]。

/ɕà/ 少ない, /ɕá/ 星, /mèinɕā/ 義父・義母

/x/ 無声軟口蓋摩擦音 [x]。

/xē/?/ 刀, /ʔánxwi/ 買う, /xâin/ 乾く

/ɣ/ 有声軟口蓋摩擦音 [ɣ]。

/ɣáin/ 家, /nāɣʔn/ 聞こえる, /ɣl/ 良い, /ɣʔphlòun/ 人

/ɤ/ 有声口蓋垂摩擦音 [ɤ]。

/ɤā/ ～か (疑問の助詞), /ɤʔ/ ～よ (呼びかけの終助詞)

/m/ 有声両唇鼻音 [m]。

/mâ/ 妻, /mà/ する・作る, /mí/ 火

/n/ 有声歯茎鼻音 [n]。

/náin/ 年, /nè/ 信じる, /nēi/ 2 (数詞)

/w/ 有声両唇半母音 [w]。

/wē/ 兄・姉, /wá/ 竹, /ʔwí/ 3人称単数代名詞

/j/ 有声硬口蓋半母音 [j]。前舌母音の前では摩擦音のそ音が強くなる傾向がある。

/já/ 魚, /jô/ 易しい, /jē/ 5 (数詞)

/l/ 有声歯茎側面音 [l]。

/lái/?/ 文字, /là/ 月, /lan/ 場所

/r/ 有声歯茎せん動音 [r]。チョウンビョー方言のような無摩擦継続音になることはない。

/nàrēi/ 時間, /chǔrâ/ 教師, /rʔnsʔn/ 乱暴な

### 3.3. 子音結合

C2の位置に現れることができる子音(介子音)は、他の2方言と同様、/w, l, r, j/の4つである。子音音素のうち17個が、C1(頭子音)としてこれらの介子音を従えることができる。C1とC2との可能な組み合わせを表にして示す。

C2\C1	p	θ	t	c	k	ʔ	ph	th	ch	kh	b	d	x	m	n	j	l
w	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
l	○				○		○			○	○			○			
r	○				○												
j	○						○				○						

(例) /pʷàìʔ/ 疲れた, /plò/ 無駄な, /prɪ̀n/ 競う, /pǰòʔ/ 吐く, /θwéi/ 血,  
 /ʔɹtwàʔ/ 問題, /cwà/ 這う, /lòʔkwi/ 遊ぶ, /klà/ 正確な, /kriʔ/ ~しなければな  
 らない, /ʔwéi/ おいしい, /phlè/ 弟子, /phjá/ 市場, /thwéi/ 犬, /chwéi/ 去勢する,  
 /khwâ/ 男, /khló/ ごぞ, /bwé/ 盛る, /blà/ (味が) 薄い, /bjàn/ 直す・治す,  
 /dwàʔ/ 数える, /xwéikàin/ だるい, /mwē/ ~である, /mlòʔ/ 大砲, /nwē/ ジャッ  
 クフルーツ, /jwà/ 鏡, /lwēi/ 鳩

### 3.4. 母音

母音音素には次の8個がある。

i	i	u	u
e	ɹ	o	
	a		

タボイ方言は末子音として /n/ および /ʔ/ をとり得るので、韻母には、(1) 開音節韻母、(2) 末子音 /n/ を持つ閉音節韻母、(3) 末子音 /ʔ/ を持つ閉音節韻母、の3種類がある。

#### (1) 開音節韻母

i	i	u	u	ei	ou
e	ɹ	o			
	a				

#### (2) 末子音 /n/ を持つ閉音節韻母

	ɹn	ein	oun
an		on	ain

#### (3) 末子音 /ʔ/ を持つ閉音節韻母



iʔ                      aiʔ                      auʔ  
 eʔ                      oʔ  
 aʔ

次に、それぞれの音声学的説明を行う。前の2方言と同様に、音韻論的な二重母音はすべて、前部要素が強く後部要素が弱い。

(1) 開音節韻母

/i/ 基本母音の [i] にほぼ同じ。

/ni/ 得る, /li/ 行く, /mi/ 御飯

ただし, /w/ の後ろでは、基本母音 [e] よりやや狭い [e<sub>1</sub>] になる。

/ʔvwi/ 3人称代名詞, /xwi/ いくつ (疑問詞), /lōʔkwi/ 遊ぶ

/i/ 中舌非円唇狭母音 [i̠]。

/phi/ 短い, /chi/ 民族, /dabi/ 末っ子

/w/ 入り渡りに弱く短い [v] を伴った [vw] である。唇の軽い突き出しを伴う。

/phū/ 跳ねる, /mū/ 女, /phū/ 弟・妹

/u/ 基本母音の [u] にほぼ同じ。

/mū/ 母, /jū/ 見る, /khū/ 頭

/e/ 基本母音の [e] と [e] の中間くらいの [e<sub>1</sub>] である。

/jē/ 5 (数詞), /ʔé/ 愛する, /dauʔné/ 見せる, /mwē/ ~である

/v/ 基本母音の [v] にほぼ同じ。軽声音節に現れる唯一の母音である。

/l̄v/ 場所を表す前置詞, /j̄v/ 1人称単数代名詞, /n̄v/ 2人称単数代名詞

/o/ 基本母音の [o] と [o] の中間くらいの [o<sub>1</sub>] である。

/tò/ まっすぐな, /lò/ 語る, /ʔó/ ある・いる, /thò/ 高い

/a/ 中舌広母音の [a] である。

/má/ ワニ, /nā/ 耳, /wà/ 夫

/ei/ 基本母音の [e] から基本母音の [i] に移行する二重母音 [ei]。

/lèi/ 風, /chéichâ/ 小便する, /nèi/ 笑う

/ou/ 基本母音の [o] から基本母音の [u] に移行する二重母音 [ou]。

/jòu/ 飛ぶ, /jōu/ ねずみ, /phòu/ 祖父

(2) 末子音 /n/ を持つ閉音節韻母

前の2方言と同じく、末子音の /n/ は母音を鼻母音化する要素であり、かつ鼻音化は母音の最後尾で生じる。同じ東部方言に属するバアン方言では、二重母音の場合に鼻音化が極めて弱くなる現象が見られたが、この方言では鼻音化は常にはっきりと聞こえる。

鼻音化された母音のうち /vn/ /on/ /oun/ の3つは、それぞれ2種の異音を持ち、共起する声調の違いによって分布が決まっている。

/vn/ 開音節韻母の /v/ と同じ調音位置の [ṽ]。ただし、声調が高降調 /´/ あるいは低降調 /^/ のとき、中舌広母音 [a] よりもわずかに狭い中舌母音 [e] から [ṽ] に移行する二重母音 [eṽ] となる。

/phìnθàʔ/ 道, /chìn/ 雨が降る, /jìn/ (犬が) 吠える  
/khìn/ 固い, /nìn/ 臭い, /khìn/ 掘る, /bìn/ 勇気のある

/an/ 音声学的には、中舌広母音 [a] から基本母音の [A] に移行する [aÃ] である。音韻論的には /an/ と解釈する。

/ʔán/ 食べる, /làn/ 落ちる, /thán/ 上る, /bán/ 若い

/on/ 開音節韻母の /o/ と同じ調音位置の [õ]。ただし、声調が高降調 /´/ あるいは低降調 /^/ のとき、非円唇後舌広母音 [a] から円唇後舌半広母音 [o] に移行する二重母音 [aõ] である。

/thòn/ 橋, /bádòn/ 似ている, /nòn/ (肉などが) 固い  
/khôn/ 外, /chón/ 強い, /bón/ 太った

/ein/ 開音節韻母の /ei/ と同じ調音位置の [eĩ] である。

/mèin/ 名, /chêin/ 清らかな, /ʔánlèin/ 借りる

/oun/ 開音節韻母の /ou/ と同じ調音位置の [oũ]。ただし、声調が高降調 /´/ あるいは低降調 /^/ のとき、/a/ よりもわずかに狭い中舌母音 [e] から [o] に移行する二重母音 [eõ] である。

/phōun/ 穴が開く, /dòun/ 町, /lōun/ 石  
/θōun/ 送る, /thóun/ 袋, /lóun/ うじ虫

/ain/ 中舌広母音 [a] から基本母音の [i] に移行する二重母音 [aĩ] である。

/jàin/ 遠い, /thàin/ 帰る, /khâin/ 後ろ, /náin/ 年

声調の違いによる /vn, on, oun/ の異音の分布を整理して次に示しておく。

	/ɤn/	/on/	/oun/
中平調・低平調のとき	[ɤ̃]	[ɔ̃]	[oũ]
高降調・低降調のとき	[ɤ̃˥]	[ɔ̃˥]	[oũ˥]

### (3) 末子音 /ʔ/ を持つ閉音節韻母

このタイプの韻母と声調の間には共起制限がある。共起できるのは中平調と低平調だけで、高降調と低降調はこのタイプの韻母とは共起しない。

/iʔ/ 母音部分は開音節韻母の /i/ とほとんど同じである。[iʔ]。

/tʰiʔ/ 建物, /kriʔ/ ~しなければならない

/eʔ/ 母音部分は開音節韻母の /e/ より狭く, 基本母音の [e] とほぼ同じである。[eʔ]。

/mēʔ/ 顔, /chēʔ/ 刺す, /xēʔ/ 刀

/oʔ/ 母音部分は開音節韻母の /o/ より狭く, 基本母音の [o] とほぼ同じである。[oʔ]。

/mōʔ/ たばこ, /thōʔ/ 豚, /kōʔ/ 呼ぶ

/aʔ/ 母音部分は開音節韻母の /a/ とほとんど同じである。[aʔ]。

/thàʔ/ 針・鉄, /chàʔ/ 縫う, /jāʔ/ 破れる

/aiʔ/ 母音部分は中舌広母音の [a] から基本母音の [i] に移行する二重母音である。

[aiʔ]。

/chāiʔ/ 田, /bàiʔ/ ふさがる, /jāiʔ/ 久しい

/auʔ/ 母音部分は中舌広母音の [a] から基本母音 [u] より少し広い [u] に移行する二重母音である。[auʔ]。

/dāuʔ/ 闘う; 部屋, /māuʔ/ 快適な, /nāuʔ/ 入る, /lāuʔ/ 尽きる, /thāuʔ/ こする

## 3.5. 声調

タボイ方言の声調素には, 次に示す4つがある。

/˥/ 中平調 (なかだいらちょう)

/˨/ 低平調 (ひくだいらちょう)

/˥˥/ 高降調 (たかおりちょう)

/˨˨/ 低降調 (ひくおりちょう)

このうち中平調と低平調は、末子音 /ʔ/ がある場合とない場合とで音声実現が少し異なる。高降調と低降調は末子音 /ʔ/ と共起しない。以下にそれぞれの音声学の説明を行う。

∧ / ① [┊ 33] (開音節および末子音 /n/ を持つ閉音節の場合) 中くらいの高さで長く平らに発音される。喉頭の状態 (phonation) は普通である。

/khā/ 折れる, /phā/ 父, /mū/ 母

② [┊ 33̂] (末子音 /ʔ/ を持つ閉音節の場合) 中くらいの高さで平らに発音されるが、持続時間は非常に短い。末子音 /ʔ/ の影響で creaky になることが多い。

/nōʔ/ 口, /jāʔ/ 破れる, /jōʔ/ 深い

∧ / ① [┊ 11] (開音節および末子音 /n/ を持つ閉音節の場合) 低く長く発音される。喉頭の状態は普通である。

/yà/ ~人 (助数詞), /mà/ する・作る, /nà/ 夜

② [┊ 11̂] (末子音 /ʔ/ を持つ閉音節の場合) 低く平らに発音されるが、持続時間は非常に短い。末子音 /ʔ/ の影響で creaky になることが多い。

/khàʔ/ 撃つ, /thàʔ/ 針, /jōʔ/ 持ち上げる

∧ / [┊ 553] 高いところからゆるやかに中くらいの高さまで下降する。喉頭の緊張を伴い、時には creaky になることがある。歴史的にはパアン方言の高平調に対応する。表記も便宜的に同じ記号を用いるが、パアン方言の高平調は、喉頭の緊張を伴わず平らに発音されるという点でタボイ方言と異なることに注意していただきたい。

/khá/ 苦い, /má/ 誤った, /bá/ 正しい

∧ / [┊ 51] 高いところから急激に、最も低いところまで下降する。高降調と同様、喉頭の緊張を伴い、時には creaky になることがある<sup>8)</sup>。

/mâ/ 妻, /châ/ 痛い, /jô/ 易しい

イントネーションがかぶさることによって声調のピッチが変化することがあり、文末助詞の /xā/ が [131] のようなピッチで発音されることは、チョウンビョー方言やバ

8) 3.4. で述べたように、3つの鼻音化韻母 /vn, on, oun/ は、中平調・低平調と共起する場合と高降調・低降調と共起する場合とで、音声実現のしかたが異なる。この事実から、平調 (中平調と低平調) と降調 (高降調と低降調) の間に異なる音韻論的ステイタスを与える解釈も可能かもしれない。例えば、声調素に高い声調素と低い声調素の2つを設定し、これに声調を下降調にする何らかの音素がかぶさったものが高降調と低降調だとするような分析である。

アン方言と非常に似ている現象である。なお、タボイ方言にもチョウンビョー方言やパアン方言のような声調素の交替現象があるかどうかは不明である。

### 3.6. 軽声音節

タボイ方言にも、チョウンビョー方言やパアン方言と同様に軽声音節があり、軽声音節に現れる母音が /ɤ/ のみであること、発話末には決して現れないことも同じである。

/ʔɤθwəi/ 巢, /pɤdè/ 兎, /nɤ- lăiʔʔəuʔ/ (2人称単数代名詞前置形一本) あなたの本, /chɤ- khlàin/ (名詞形成接頭辞一話す) 言葉

### 3.7. 分布の制限

頭子音と声調の間にやはり共起制限があり、子音音素 /p, t, c, k, ʔ, b, d/ で始まる音節が末子音 /ʔ/ を伴わない場合に、中平調 /ˊ/ と共起する例はみつかっていない。これが体系上不可能なのか、それとも借用などによって空き間が埋められる可能性があるのかは不明である。

また、これらの子音が低降調 /ˋ/ および末子音 /ʔ/ を従えた中平調 /ˊʔ/ と共起することはまれであるが、次に示すような若干の共起例がある。

/pí/ 小さい, /bê/ ~のように

/ʔaiʔ/ (否定を表す助詞) (cf. パアン方言 /ʔé/, チョウンビョー方言 /ʔéʔ/)

## 4. 音 韻 対 応

ここではチョウンビョー方言、パアン方言、タボイ方言の頭子音・韻母・声調の音韻対応を規則的なもののみ示す。それぞれの方言を C (/coun\_byo\_/), Ph (/phaan\_/), D (/dawe\_/) と表すことにする。対応表中のハイフンは同源の語彙がその方言にないことを表す。

#### (1) 頭子音

対応表

C		p	θ	t	k	ʔ	ph	th	kh	ɓ	d	b	b	b	s	c	sh	z	ç	ð
Ph		p	θ	t	k	ʔ	ph	th	kh	b	d	p	ph	b	c	c	ch	-	ç	-
D		p	θ	t	k	ʔ	ph	th	kh	b	d	p	ph	b	c	c	ch	-	ç	-

x y m n ɲ - ŋ w j l r - ɣ

x y m n - ɲ - w j l r h ɣ

x y m n - - - w j l r - ɣ

(例)

C/p/: Ph/p/: D/p/

C/přnâ/ Ph/přnâ/ D/přnâ/ 水牛

C/θ/: Ph/θ/: D/θ/

C/θè/ Ph/θí/ D/θí/ ~できる (能力)

C/t/: Ph/t/: D/t/

C/táin/ Ph/tàin/ D/tàin/ 作る

C/k/: Ph/k/: D/k/

C/kà/ Ph/ká/ D/ká/ 難しい

C/?/: Ph/?/: D/?/

C/?à/ Ph/?á/ D/?á/ 多い

C/ph/: Ph/ph/: D/ph/

C/phò/ Ph/phú/ D/phú/ 子供

C/th/: Ph/th/: D/th/

C/thì/ Ph/thî/ D/thî/ 水

C/kh/: Ph/kh/: D/kh/

C/khâ/ Ph/khâ/ D/khâ/ 折れる

C/b/: Ph/b/: D/b/

C/bá/ Ph/bà/ D/bà/ 信仰する

C/d/: Ph/d/: D/d/

C/dà/ Ph/dá/ D/dá/ 見える

C/b/: Ph/p/: D/p/

C/báθl/ Ph/př/ D/př/ 私達 (1人称複数代名詞独立形)

C/b/: Ph/ph/: D/ph/

C/bř/ Ph/phřn/ D/phřn/ ~の中

C/b/: Ph/b/: D/b/

C/břjós/ Ph/bějò/ D/bějò/ このように

C/s/: Ph/c/: D/c/

- C/sù/ Ph/cú/ D/cóu/ 手  
 C/c/: Ph/c/: D/c/  
 C/cʷ/ Ph/cʷun/ D/cʷn/ 怠惰な  
 C/sh/: Ph/ch/: D/ch/  
 C/shʷ/ Ph/chʷn/ D/chʷn/ 雨が降る  
 C/ɸ/: Ph/ɸ/: D/ɸ/  
 C/ɸā/ Ph/ɸā/ D/ɸā/ 老いた  
 C/x/: Ph/x/: D/x/  
 C/xēʔ/ Ph/xé/ D/xēʔ/ 刀・ナイフ  
 C/ɣ/: Ph/ɣ/: D/ɣ/  
 C/ɣé/ Ph/ɣì/ D/ɣì/ 良い  
 C/m/: Ph/m/: D/m/  
 C/má/ Ph/mà/ D/mà/ する・作る  
 C/n/: Ph/n/: D/n/  
 C/nái/ Ph/nè/ D/nè/ 信じる  
 C/w/: Ph/w/: D/w/  
 C/wá/ Ph/wà/ D/wà/ 夫  
 C/j/: Ph/j/: D/j/  
 C/já/ Ph/jʷ/ D/jʷ/ 私（1人称単数代名詞独立形）  
 C/l/: Ph/l/: D/l/  
 C/lá/ Ph/là/ D/là/ 月  
 C/r/: Ph/r/: D/r/  
 C/krɪʔ/ Ph/krì/ D/krìʔ/ ～しなければならない  
 C/ɤ/: Ph/ɤ/: D/ɤ/  
 C/ɤà/ Ph/ɤâ/ D/ɤâ/ ～か（疑問の終助詞）

(2) 韻母

対応表

C		i	i	iʔ	u	u	e	eʔ	o	oʔ	ɤ	ɛ	ai	a	aʔ	ɔ	au	eiʔ	ouʔ	ɯuʔ
Ph		i	i	i	u	u	ɪ	e	ɯ	o	ɤ	ɛ	ɛ	a	a	ɔ	ɔ	ai	au	au
D		ei	i	iʔ	u	ou	i	eʔ	u	oʔ	ɤ	e	e	a	aʔ	o	o	aiʔ	auʔ	auʔ

ɤn an ein ain ein ɤun oun aun ɤ ɤ  
ɤn an ein ain ein oun oun on ɤun ɤn  
ɤn an ein ain ain oun oun on ɤn ɤn

(例)

C/i/: Ph/i/: D/ei/

C/li/ Ph/li/ D/lei/ 風・空気

C/i/: Ph/i/: D/i/

C/shi/ Ph/chi/ D/chi/ 民族

C/iʔ/: Ph/i/: D/iʔ/

C/krʔ/ Ph/krʔ/ D/krʔ/ ~しなければならぬ

C/u/: Ph/u/: D/u/

C/phû/ Ph/phû/ D/phû/ 弟・妹

C/u/: Ph/u/: D/ou/

C/jû/ Ph/jû/ D/jû/ 飛ぶ

C/e/: Ph/i/: D/i/

C/lé/ Ph/li/ D/li/ 行く

C/eʔ/: Ph/e/: D/eʔ/

C/mêʔ/ Ph/mé/ D/mêʔ/ 顔

C/o/: Ph/u/: D/u/

C/mô/ Ph/mô/ D/mô/ 母

C/oʔ/: Ph/o/: D/oʔ/

C/phôʔ/ Ph/phô/ D/phôʔ/ 欠ける

C/ɤ/: Ph/ɤ/: D/ɤ/

C/lɤ/ Ph/lɤ/ D/lɤ/ 前置詞 (場所・起点などを表す)

C/e/: Ph/e/: D/e/

C/mwê/ Ph/mwê/ D/mwê/ ~である (コピュラ動詞)

C/ai/: Ph/e/: D/e/

C/jâi/ Ph/jê/ D/jê/ 5 (数詞)

C/a/: Ph/a/: D/a/

C/phâ/ Ph/phâ/ D/phâ/ 父

C/aʔ/: Ph/a/: D/aʔ/



- C/jâʔ/ Ph/já/ D/jāʔ/ 破れる
- C/ɔ/: Ph/ɔ/: D/o/
- C/nô/ Ph/nó/ D/nó/ それ・あれ (指示代名詞)
- C/au/: Ph/ɔ/: D/o/
- C/ʔau/ Ph/ʔó/ D/ʔó/ ある・いる
- C/eiʔ/: Ph/ai/: D/aiʔ/
- C/shêiʔ/ Ph/chái/ D/cháiʔ/ 田
- C/ouʔ/: Ph/au/: D/auʔ/
- C/lôuʔ/ Ph/láu/ D/láuʔ/ 尽きる
- C/ɽuʔ/: Ph/au/: D/auʔ/
- C/mʔuʔ/ Ph/máu/ D/máuʔ/ 健康な・楽しい・快適な
- C/ɽn/: Ph/ɽn/: D/ɽn/
- C/phʔnθàʔ/ Ph/phʔnθà/ D/phʔnθàʔ/ 道
- C/an/: Ph/an/: D/an/
- C/ʔan/ Ph/ʔán/ D/ʔán/ 食べる
- C/ein/: Ph/ein/: D/ein/
- C/méin/ Ph/mèin/ D/mèin/ 名前
- C/ain/: Ph/ain/: D/ain/
- C/tháin/ Ph/thàin/ D/thàin/ 帰る
- C/ein/: Ph/ein/: D/ain/
- C/jèin/ Ph/yéin/ D/yáin/ 家
- C/ɽuun/: Ph/oun/: D/oun/
- C/mátɽuun/ Ph/màtòun/ D/màtòun/ 脅す・恐がらせる
- C/oun/: Ph/oun/: D/oun/
- C/phlóun/ Ph/phlòun/ D/phlòun/ カレン人
- C/aun/: Ph/on/: D/on/
- C/tháun/ Ph/thòn/ D/thòn/ 橋
- C/ɽ/: Ph/ɽuun/: D/ɽn/
- C/ɔ̀/ Ph/bɽuun/ D/bɽn/ 勇敢な
- C/ɽ/: Ph/ɽn/: D/ɽn/
- C/θɛ/ Ph/θɛn/ D/θɛn/ 3 (数詞)

(3) 声調

対応表

C		ˆ	ˊ	ˋ	ˋ	ˊ?	ˊ?
Ph		-	ˋ	ˊ	ˆ	ˊ	ˋ
D		-	ˋ	ˊ	ˆ	ˋ?	ˋ?

(例)

C/ˆ/: Ph/ˋ/: D/ˋ/

C/phâ/ Ph/phâ/ D/phâ/ 父

C/ˊ/: Ph/ˊ/: D/ˊ/

C/ná/ Ph/ná/ D/ná/ 夜

C/ˋ/: Ph/ˋ/: D/ˋ/

C/khà/ Ph/khà/ D/khà/ 苦い

C/ˆ/: Ph/ˆ/: D/ˆ/

C/mà/ Ph/mâ/ D/mâ/ 妻

C/ˊ?: Ph/ˊ/: D/ˋ?/

C/jâ?/ Ph/já/ D/jâ?/ 破れる・裂ける

C/ˋ?: Ph/ˋ/: D/ˋ?/

C/thâ?/ Ph/thà/ D/thâ?/ 針, 鉄

### 5. テキスト

参考資料として、チョウンビョー方言とバアン方言の同じ内容のテキストを2編ずつ掲げる。2編ともバアンで発行されたカレン人のためのポー・カレン語教科書 /phlòun lái p5 lǎ- chān/「カレン語読本第1課程」所収の読み物がもとになっている。バアン方言のテキストはこれに一部変更を加えたものである。一方、チョウンビョー方言のテキストは、インフォーマントと共同でこの読み物を意味が変わらないようにチョウンビョー方言に直したものである。

このテキストを見れば、東部方言と西部方言がいかなる点で違っているか、またなぜ相互に通じないのかをある程度把握することができると思う。

なお、テキストのグロス中、語彙的意味以外のものは括弧でくくってある。

5.1. チョウンビョー方言のテキスト

5.1.1. 「お父さんの水田に遊びに行く」

- (0) "lé yâ?kwé lʻ pá shêi? phʻ"  
行く遊ぶ (場所) 父 田 中
- (1) kʻnɨjɔ mwê múní ʔʻtʻuʻ nò l̩.  
今日 (繫辞) 日 日曜 (主題) (丁寧)  
nân yéshèin lʻ ʔʻ- phúkhwà sʻ- θâ?bwá ní yá  
(人名) (列举) 3sg 弟 (人名) 2 ~人  
bà lé málò léi? lʻ cáun ʔàu ʔé?  
(当為) 行く 勉強する 文字 (場所) 学校 ある (否定)
- (2) wáinân, pʻ- kʻ- lé yâ?kwé lʻ pá ʔʻ- shêi? phʻ ʔó yà.  
お姉さん 1pl (叙想) 行く遊ぶ (場所) 父 3sg 田 中 あそこか?
- (3) pʻ- kʻ- lé, dâbó. pʻ- kʻ- lé lʻ khli. nʻ- wâ khli  
1pl (叙想) 行く 末っ子 1pl (叙想) 行く (道具) 舟 2sg こぐ 舟  
θè yà.  
できるか?
- (4) ʔò, jʻ- wâ khli θè tó.  
(感嘆) 1sg こぐ 舟 できるよ
- (5) mánê khliwá ní b̩áun, dâbó. ná, wâ khli lʻ ʔʻmê?jà.  
取る 權 2 ~本 末っ子 2sg こぐ 舟 (場所) 前  
já, jʻ- kʻ- wâ lʻ ʔʻlânkhàin nê.  
1sg 1sg (叙想) こぐ (場所) 後ろ ね
- (6) thèphúwái ní yá thàn thòu? khli yáun  
兄弟 2 ~人 上る 乗る 舟 そして  
lé wè lʻ ʔʻ- phá cán ʔó l̩.  
行く (3人称) (場所) 3sg 父 小屋 あそこ (丁寧)
- (7) wáinân, phá cán nò ʔàu phá? jáin cí yà.  
お姉さん 父 小屋 (主題) ある (指大) 遠い (指大) か?
- (8) dâbó, cán ʔàu θé phlòun nò nʻ- dà yà.  
末っ子 小屋 ある 3 ~個 (主題) 2sg 見えるか?

- lý ʔyklá kǔ- phlòun nò phâ ʔǔ- cán là.  
 (場所) 真ん中 1 ～個 (主題) 父 3sg 小屋 (丁寧)
- (9) thǔphǔwâi ní yá lé wè lý phâ cán ʔó là.  
 兄弟 2 ～人 行く (3人称) (場所) 父 小屋 あそこの (丁寧)
- (10) wé, phâ. wé, phâ.  
 (感嘆) お父さん (感嘆) お父さん
- (11) wé, nǔθi yài má mǔnò lài.  
 (感嘆) 2pl 来る する 何 か?  
 nǔθi lé jâ thi lý thikhlóʔ phǔ lǔyé nè.  
 2pl 行く 泳ぐ 水 (場所) 河 中 (禁止) ね  
 nǔθi kǔ- lánʔǔuʔ.  
 2pl (叙想) 溺れる
- (12) dâbó, yài. pǔ- kǔ- lé ʔànkhwè lý tǔkhâkhlóʔ ʔó.  
 末っ子 来る 1pl (叙想) 行く 釣る (場所) 川 あそこの
- (13) pǔ- kǔ- lé, wâinân.  
 3pl (叙想) 行く お姉さん
- (14) thǔphǔwâi ní yá lé ʔànkhwè là.  
 兄弟 2 ～人 行く 釣る (丁寧)
- (15) dâbó, ná, ʔànkhwè lǔjǔ, jǔ- kǔ- lé ʔànkhwè lǔʔó.  
 末っ子 2sg 釣る ここ 1sg (叙想) 行く 釣る あそこ
- (16) ʔó, wâinân, jǔ- kǔ- ʔànkhwè thǔjǔ là.  
 (感嘆) お姉さん 1sg (叙想) 釣る この辺 (丁寧)
- (17) ʔǔshǔʔǔthó lǔ- jèiʔ ʔà, múmèʔ xâinlân wè là.  
 時間 (否定) かかる (否定) 日差し 傾く (3人称) (丁寧)
- (18) wé, dâbó, nǔ- nè jâ xwè ʔèin lài.  
 (感嘆) 末っ子 2sg 得る 魚 いくつ ～匹 か?
- (19) jǔ- nè jâkò lí ʔèin, wâinân.  
 1sg 得る ナマズ 4 ～匹 お姉さん
- (20) ʔà jôuʔ. jǔ- nè jâlú lí ʔèin lý jâphlèiʔ lí ʔèin.  
 十分 (完了) 1sg 得る 雷魚 4 ～匹 (列举) ノガペー 4 ～匹
- (21) thâunnò kǔ- cà ʔǔwéθiʔǔ- phâ kôʔ só ʔǔwéθi là.  
 こうして 1 ～回 3pl 父 呼ぶ (遠隔) 3pl (丁寧)

- (22) wé, phòmù phòkhwà òì, ?ǎkhèin bà jôu?, nǎ̀òì kǎ-  
 (感嘆) 娘 息子 (複数) 時間 十分 (完了) 2pl (叙想)  
 bà tháin. shǎ- kǎ- khèi? lán là.  
 (当為) 帰る (形式主語) (叙想) 暗い (消滅) (丁寧)
- (23) ?ó, phá, pǎ- kǎ- tháin là.  
 (感嘆) 父 1pl (叙想) 帰る (丁寧)  
 dáòó, mánê khliwá, pǎ- kǎ- tháin.  
 末っ子 取る 權 1pl (叙想) 帰る
- (24) thǎphǎwái ní yá thàn thòu? khli yáun tháin lí ?ǎwéòì?ǎ- jèin là.  
 兄弟 2 ~人 上る 乗る 舟 そして 帰る へ 3pl 家 (丁寧)

5.1.2. 「健康について」

- (0) “shǎ- àushàun?àukhlàin ?ǎyáin”  
 (名詞化) 健康な 事柄
- (1) pǎwédábáòì lǎphà jó pǎ- kǎ- bà ?àu shèinshèinphlèphlè  
 1pl (強調形) (複数) この 1pl (叙想) (当為) 住む 清潔に  
 kô? ní dè? là.  
 毎 日 毎 (丁寧)
- (2) pǎ- mì yáithè thàn lí yáunànkhwǎ? nò, pǎ- bà phlá pǎ-  
 1pl 寝る 起きる (上昇) に 朝 (主題) 1pl (当為) 洗う 1pl  
 mē? shèinshèin là.  
 顔 清潔に (丁寧)
- (3) ?è yáun, pǎ- bà thǎwǎ? shèin pǎ- òwà lí thílà nò  
 もし 終わる 1pl (当為) 磨く 清潔な 1pl 歯 (道具) 塩 (主題)  
 là.  
 (丁寧)
- (4) pǎ- bà yù pǎ- khò lí phláuòò yáun, pǎ- bà khwì pǎ-  
 1pl (当為) 塗る 1pl 頭 (道具) 椰子油 終わる 1pl (当為) 梳く 1pl  
 khò yéyé là.  
 頭 良く (丁寧)
- (5) càn, pǎlòu?, shǎkàunshǎòò? thǎ?ǎlòu? nò mǎ, ?ǎki lǎ- thàn  
 腰巻 シャツ 着る物 全部 (主題) も 垢 (否定) 上る

- ɓà ʔȳyân, p̄- k̄- ɓà ʔànshòwâ? káun06? l̄.  
 (否定) 為 1pl (叙想) (当為) 洗う 着る (丁寧)
- (6) sh̄ʔàushàunʔàukhlàin k̄- ʔau ʔȳyân p̄- k̄- ɓà ʔàn  
 健康 (叙想) ある 為 1pl (叙想) (当為) 食べる  
 sh̄ʔànsh̄ʔáu l̄phà l̄ k̄- kài thàn p̄- yân  
 食べ物 (複数) (関係詞) (叙想) 成る (出現) 1pl 力  
 nò l̄.  
 (主題) (丁寧)
- (7) phòthà 0i ȳ, bá0i jó p̄- ʔàn ʔȳkhèin p̄- ʔàn, p̄- kwé  
 子供 (複数) よ 3pl この 1pl 食べる 時 1pl 食べる 1pl 遊ぶ  
 ʔȳkhèin p̄- kwé nò, p̄- thâ? k̄- xwi p̄- k̄-  
 時 1pl 遊ぶ (主題) 1pl 心 (叙想) 軽い 1pl (叙想)  
 ʔàushàunʔàukhlàin l̄.  
 健康な (丁寧)
- (8) bá0i ʔè ʔàushàunʔàukhlàin nò, p̄- 0̄ p̄- thâ? xwi wè nò  
 1pl もし 健康な (主題) 1pl 肝 1pl 心 軽い (3人称) (主題)  
 mwê n̄0i 0èjà yà.  
 (繫辞) 2pl 知っているか?
- (9) ʔè yáun, p̄- ʔàushàunʔàukhlàin nò, p̄- málò lèiʔlái m̄  
 もし 終わる 1pl 健康な (主題) 1pl 学ぶ 文字 も  
 0è phlài l̄.  
 できる 速い (丁寧)
- (10) bá jó p̄- 0è p̄- ɓà lèiʔlái ʔȳl̄ʔȳxwé tá, p̄- th̄i p̄- khân  
 1pl この 1pl できる 3pl できる 文字 十分に (順接) 1pl 国 1pl 国  
 p̄- t̄wàn ʔȳyân p̄- shí p̄- shá ʔȳyân m̄ p̄- másh̄ȳ  
 1pl 村 為 1pl 民族 1pl 民族 為 も 1pl 手伝う  
 k̄- kài thàn wè l̄.  
 (叙想) できる (出現) (3人称) (丁寧)

5.2. パアン方言のテキスト

5.2.1. 「お父さんの水田に遊びに行く」

- (0) "li cáinkwè lí phā cháí phòn"  
行く遊ぶ (場所) 父 田 中
- (1) lǐnjò mwē ʔtáú mūnì nó lǐ  
今日 (繫辞) 日曜 日 (主題) (丁寧)  
nān yichēin dè ʔy- phúkhwá cǔ- θàʔwà nī yà nó  
(人名) (列举) 3sg 弟 (人名) 2 ~人 (主題)  
bá li màlú láí lí phjā ʔò ʔó lǐn ʔé  
(当為) 行く 勉強する 文字 (場所) 学校 あそこのある もう (否定)
- (2) wēnān pǔ- lí cáinkwè lí phā ʔy- cháí phòn ʔò rā.  
お姉さん 1pl 行く遊ぶ (場所) 父 3sg 田 中 あそこか?
- (3) li dábì. pǔ- mǔ- lí dè khlí. nǔ- phlē khlí θí chī  
行く 末っ子 1pl (叙想) 行く (道具) 舟 2sg こぐ 舟 できる (婉曲)  
lǐ jā.  
(丁寧) か?
- (4) ʔó, jǔ- phlē khlí θí, wēnān.  
(感嘆) 1sg こぐ 舟 できる お姉さん
- (5) ʔánmānī mēinphlē nān nī béin, dábì. ʔèyòn, nǔ- phlē khlí lí  
取る 權 ~ほど 2 枚 末っ子 そして 2sg こぐ 舟 (場所)  
ʔýméjā nó, jǔ- mǔ- phlē lí ʔvlánkháin jò lǐ.  
前 その 1sg (叙想) こぐ (場所) 後ろ この (丁寧)
- (6) tǔphūwē nī yà tháú thán khlí yòn  
兄弟 2 ~人 乗る (上昇) 舟 そして  
li wē lí ʔy- phā càn ʔò lǐ.  
行く (3人称) (場所) 3sg 父 小屋 あそこ (丁寧)
- (7) wēnān, phā càn nó ʔó phā jāin chī rā.  
お姉さん 父 小屋 (主題) ある (指大) 遠い (婉曲) か?
- (8) dábì, càn ʔó θǔn phlóun nó mwē nǔ- dá chī rā.  
末っ子 小屋 ある 3 ~個 (主題) (繫辞) 2sg 見える (婉曲) か?

lɿ ʔɿklà lǽ- phlóun nó mwē wē dá phā ʔɿ-  
 (場所) 真ん中 1 ～個 (主題) (繫辞) (3人称) (限定) 父 3sg  
 càn nó lǽ.

小屋 (主題) (丁寧)

(9) tǽphúrwē ní yà lì wē dá lɿ ʔɿ- phā càn ʔò  
 兄弟 2 ～人 行く (3人称) (限定) (場所) 3sg 父 小屋 あそこ  
 lǽ.

(丁寧)

(10) wé, phā. wé phā.  
 (感嘆) お父さん (感嘆) お父さん

(11) wé, nǽθí yē mà nó lē.  
 (感嘆) 2pl 来る する 何か?

nǽθí lì jā klàn bá thí lɿ thíkhló phèn ʔò lǽxi  
 2pl 行く 泳ぐ やたらと (許可) 水 (場所) 川 中 あそこ (禁止)  
 jǽ. nǽθí mǽ- lànʔàu.

よ 2pl (叙想) 溺れる

(12) dábi, yē. pǽ- mǽ- lì ʔánkhwē lɿ thíkhló phèn ʔò.  
 末っ子 来る 1pl (叙想) 行く 釣る (場所) 川 中 あそこの

(13) lì, wēnân.  
 行く お姉さん

(14) tǽphúrwē ní yà lì ʔánkhwē wē dá lǽ.  
 兄弟 2 ～人 行く 釣る (3人称) (限定) (丁寧)

(15) dábi, nǽ- ʔánkhwē léjò, jǽ- mǽ- ʔánkhwē léʔò.  
 末っ子 2sg 釣る ここ 1sg (叙想) 釣る あそこ

(16) ʔò, wēnân, jǽ- mǽ- ʔánkhwē thǽnjò lǽ.  
 (感嘆) お姉さん 1sg (叙想) 釣る この辺 (丁寧)

(17) chǽʔǽchǽnʔǽthǽ lǽ- jái lǽ- mǽ bá nó tā,  
 時間 (否定) かかる (否定) かかる (否定) (主題) ～すると  
 mūmé xāinlàn wē dá lǽ.

日差し 傾く (3人称) (限定) (丁寧)

(18) wé, dábi, nǽ- ní já xwē béin lē.  
 (感嘆) 末っ子 2sg 得る 魚 いくつ ～匹 か?



- (19) jǔ- nī jákú lí béin, wēnān.  
1sg 得る ナマズ 4 ~匹 お姉さん
- (20) bā jàu. jǔ- nī jálǔ lí béin dè jápílái lí béin jàu  
十分 (完了) 1sg 得る 雷魚 4 ~匹 (列举) シガペー 4 ~匹 (完了)  
lǎ.  
(丁寧)
- (21) thònnóò tā, ʔǔθíwē phā kò cù ʔǔθí lǎ.  
そうして (順接) 3pl 父 呼ぶ (遠隔) 3pl (丁寧)
- (22) wé, phúmú phúkhwá θí, nǔθí bá ʔǔkhā thàin jàu.  
(感嘆) 娘 息子 達 2pl 当たる 時間 帰る (完了)  
chǔ- mǔ- khài làn lǎ.  
(形式主語) (叙想) 暗い (消滅) (丁寧)
- (23) ʔò, phā, pǔ- mǔ- thàin lǎ.  
(感嘆) 父 1pl (叙想) 帰る (丁寧)  
dábì, ʔánmàní mèinphlē, pǔ- mǔ- thàin lǎ.  
末っ子 取る 權 1pl (叙想) 帰る (丁寧)
- (24) tǔphúwē nī yà tháu thán khlí yòn thàin wē  
兄弟 2 ~人 乗る (上昇) 舟 そして 帰る (3人称)  
lǎ ʔǔθíʔǔ- yéin ʔò lǎ.  
(場所) 3pl 家 あそこ (丁寧)

### 5.2.2. 「健康について」

- (0) “ʔóchónʔókhlain ʔǔyāin”  
健康な 事柄
- (1) pǔ jò pǔ- bá ʔó ʔèphlǎi ʔèchēinpràn kō nì dè nó lǎ.  
1pl この 1pl (当為) 住む 清潔に 清潔に 毎日 毎 (主題) (丁寧)
- (2) pǔ- mí yèthwun thán lǎ kèwò khā nó, pǔ- bá phlà pǔ- mé  
1pl 寝る 起きる (上昇) に 朝 時 (主題) 1pl (当為) 洗う 1pl 顔  
ʔèchēin lǎ.  
清潔に (丁寧)
- (3) ʔè yòn, bē mǔ- chēinphlí θò, pǔ- bá tháu pǔ- mé  
もし 終わる 為 (叙想) 清潔な 為 1pl (主題) 磨く 1pl 歯

- dè thílá nó l̩.  
 (道具) 塩 (主題) (丁寧)
- (4) p̃- yú thán khú dè phl̩b̩ááθú ?è yòn, bá khwí  
 1pl 塗る (出現) 頭 (道具) 椰子油 もし 終わる (当為) 梳く  
 thán khú nó ?èyì chī l̩.  
 (出現) 頭 (主題) 良く (婉曲) (丁寧)
- (5) th̃d̩òn, ch̩ainc̩ân, ch̃k̩ònch̃θò nó θí, b̩èθò ?̃kí l̃- ?ó bá  
 腰巻 シャツ 着る物 (主題) も 為 垢 (否定) ある (否定)  
 θò, p̃- bá ?ánθíj̩à kònθò w̩é dá l̩.  
 為 1pl (当為) 洗う 着る (3人称) (限定) (丁寧)
- (6) b̩èθò ch̃?óchón?ókh̩l̩ân m̃- ?ó θò, p̃- bá ?án chá?ánchá?ò  
 為 健康 (叙想) ある 為 1pl (当為) 食べる 食べ物  
 θí l̃phá l̃ ?̃- ké thán p̃- y̩ân nó chī l̩.  
 (複数) (関係詞) 3sg 成る (出現) 1pl 力 (主題) (婉曲) (丁寧)
- (7) ph̩óá θí w̩é, p̃- j̩ò bá ?̃kh̩á ?án p̃- ?è ?án, bá  
 子供 (複数) よ 1pl この 当たる 時 食べる 1pl もし 食べる 当たる  
 ?̃kh̩á lók̩wè p̃- ?è lók̩wè chī tā, p̃n̩anch̩ā θí m̃-  
 時 遊ぶ 1pl もし 遊ぶ (婉曲) (順接) 私達自身 も (叙想)  
 chónkh̩l̩ân p̃- θ̃y̩un p̃- θà θí m̃- xw̩é w̩é chī l̩.  
 健康な 1pl 肝 1pl 心 も (叙想) 軽い (3人称) (婉曲) (丁寧)
- (8) p̃n̩anch̩ā ?è chónkh̩l̩ân cáì b̩ò, p̃- θ̃y̩un p̃- θà θí m̃- xw̩é  
 身体自身 もし 健康な 言う もし 1pl 肝 1pl 心 も (叙想) 軽い  
 w̩é chī nó, mw̩é ñ- θíj̩á chī w̩á.  
 (3人称) も (主題) (繫辞) 2pl 知っている (婉曲) か?
- (9) ?è yòn, p̃- ?è ?óchón?ókh̩l̩ân nó p̃- m̩álú l̩áil̩ē θí  
 もし 終わる 1pl もし 健康な (主題) 1pl 学ぶ 文字 も  
 θí w̩é ph̩lé chī l̩.  
 できる (3人称) 速い (婉曲) (丁寧)
- (10) p̃ j̩ò ch̃θích̃b̩á p̩ounp̩á ?è ?ó dàup̩ân w̩é chī  
 1pl この 知識 知恵 もし ある 十分な (3人称) (婉曲)  
 tā, p̃- th̩kh̩ân p̃- d̩oun t̃w̩ân ?̃y̩ân p̃- ch̩ì p̃- chá  
 (順接) 1pl 国 1pl 町 村 為 1pl 民族 1pl 民族

řǎyān θí pǎ- mǎbòmáchǎn mǎ- kέ thán wē chī  
 為 も 1pl 助ける (叙想) できる (出現) (3人称) (婉曲)  
 nó lǎ.  
 (主題) (丁寧)

### 5.3. 日本語訳

#### 5.3.1. 「お父さんの水田に遊びに行く」

(0) 「お父さんの水田に遊びに行く」

(1) 今日は日曜日です。nān yéshèin/nān yìchēin と弟の sǎ- θà?bwa/cǎ- θà?wà の 2人は学校に行って勉強する必要がありません。

(2) (弟): お姉さん, お父さんの田んぼに遊びに行かないか?

(3) (姉): 行こう (弟よ)。舟で行こう。舟がこげる?

(4) (弟): えっ? こげるよお姉さん。

(5) (姉): 櫂を2本持ってきて。そうしたら, あなたはそっちの前のほうでこぐのよ。わたしはこっちの後ろのほうでこぐわ。

(6) 姉弟2人は舟に乗ってお父さんの小屋に向かいます。

(7) (弟): お姉さん, お父さんの小屋はとても遠いのかなあ?

(8) (姉): あそこに小屋が3つあるのが見えるでしょう? 真ん中の小屋がお父さんのよ。

(9) 姉弟2人はお父さんの小屋に行きます。

(10) (弟): お父さん, お父さん。

(11) (父): おや, お前達何をしに来たのかな? 川の中で泳いだりしちゃいけないよ。溺れるからね。

(12) (姉): (弟よ) ねえ, 川に魚釣りに行きましょうよ。

(13) (弟): うん, 行こう。

(14) 姉弟2人は魚釣りをしに行きます。

(15) (姉): あなたはここで釣るのよ。わたしはむこうで釣るわ。

(16) (弟): うん, お姉さん。ぼくはこの辺で釣るよ。

(17) 間もなく日が暮れてきました。

(18) (姉): あなた魚何匹釣れた?

(19) (弟): ナマズが4匹釣れた。

(20) (姉): なかなかいいわね。わたしは雷魚が4匹とソガペー (魚の1種) が4匹

釣れたわよ。

- (21) そのとき、2人のお父さんが呼びました。
- (22) (父)：おーい(娘と息子よ)。もう帰る時間だぞ。さあ帰ろう。
- (23) (姉)：うん、お父さん。帰りましょう。(弟よ) 權を持ってきて。帰るわよ。
- (24) 姉弟2人は舟に乗って家に帰りました。

### 5.3.2. 「健康について」

- (0) 「健康について」
- (1) 私達は、毎日清潔に暮らさなければならない。
- (2) 朝起きたら、きれいに顔を洗わなければならない。
- (3) それが終わったら、きれいになるまで塩で歯を磨かなければならない。
- (4) 頭にヤシ油を塗ってから、髪をしっかり梳かさなければならない。
- (5) 腰巻き、シャツなどの着物もみな、垢がたまらないように、きれいに洗って身につけなければならない。
- (6) 健康に暮らすためには、力がつくような食べ物を食べなければならない。
- (7) 子供達よ、食べるべきときには食べ、遊ぶべきときには遊ぶようにすると、体が丈夫になって、心も楽しくなるものだ。
- (8) 体が丈夫だと心も楽しくなることを、あなた方は知っているだろうか。
- (9) そして、体が丈夫だと、勉強をしても速く身につくようになるのだ。
- (10) そして私達に十分に知恵がそなわっていれば、私達の国や町や村のため、そして私達の民族のためにも、貢献することができるのだ。

## 6. おわりに

本稿では、ポー・カレン語のチョウンビョー方言、パアン方言、タポイ方言の音韻体系を記述した。本稿の目的は共時態の記述であるが、敢えて各方言を変化という側面から見た場合の特色を挙げるとすれば、次のようなものがある。チョウンビョー方言では、/b/ : /b/ の対立が生じていることと、音節末子音の /ʔ/ が将来消滅しそうな傾向を見せていること。パアン方言では、かつて存在したと思われる音節末子音の /ʔ/ が消滅し、その代償として新しい母音音素が生じたと考えられること。そして、タポイ方言では、/ei/ と /ou/ が他の方言の単母音に対応することから、この二重母音が、おそらくは母音推移のようなものが起きた結果、生じたと考えられること、等

々である。もちろん、このような諸特徴は、比較言語学の立場から慎重に検討されるべき問題である。また、今後は、これらの方言の文法レベルの記述に進んでいく予定である。

## 文 献

- BENEDICT, P. K.  
1972 *Sino-Tibetan: A Conspectus*. Cambridge: Cambridge University Press.
- COOKE, J. R., E. HUDSPITH and J. A. MORRIS  
1976 Phlong (Pwo Karen of Hot District, Chiang Mai). In William A. Smally (ed.), *Phonemes and Orthography: Language Planning in Ten Minority Languages of Thailand*, Pacific Linguistics Series C-43: 187-220, The Australian National University.
- 原田正春・大野 徹  
1979 『ビルマ語辞典』大阪：日本ビルマ文化協会。
- JONES, R. B. Jr.  
1961 *Karen Linguistic Studies*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.
- 加藤昌彦  
1991 On Three Karen Particles di?, li and lv: The Karen Version of 'Still' and 'Anymore'. 『東京大学言語学論集』12: 97-117。  
1993 「スゴー・カレン語の動詞連続」『アジア・アフリカ言語文化研究』45: 177-204。
- マティソフ, J. A.  
1990 「日本語とチベット・ビルマ諸語」崎山 理編『日本語の形成』東京：三省堂, pp. 54-73。
- 西田龍雄  
1967 「ビルマにおけるバオ族の言語について——南方バオ語バアン方言覚え書き——」『言語研究』50: 15-33。
- PURSER, W. C. B.  
1922 *A Comparative Dictionary of the Pwo-Karen Dialect*. Rangoon: American Baptist Mission Press.
- SHAFER, R.  
1974 *Introduction to Sino-Tibetan*. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.
- STERN, T.  
1968 Three Pwo Karen Scripts: A Study of Alphabet Formation. *Anthropological Linguistics* 10 (1): 1-39.
- 藪 司郎  
1988 「カレン語群」『言語学大辞典』東京：三省堂, pp. 1312-1318。